

2020 年 度

定 時 総 会 資 料

公益社団法人 日本経営工学会

公益社団法人 日本経営工学会

2020 年度定時総会

1. 報告事項

- 1. 1 2019 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告
及び収支決算報告
- 1. 2 監査報告
- 1. 3 2020 年度事業計画, 収支予算報告
- 1. 4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

2. 審議事項

- 第一号議案 2019 年度事業報告及び収支決算報告の件
- 第二号議案 名誉会員推戴の件

1. 報告事項

1. 1 2019 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告

1. 1. 1 2019 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告

[I] 研究発表会, 学術講演会, 報告会等の開催 (定款第 4 条第 1 号): 大会委員会

(1) 秋季大会

日時: 2019 年 9 月 9 日 (月) ~ 10 日 (火)

場所: タワーホール船堀

IE 協会と共催

(2) 春季大会

日時: 2020 年 3 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金) を予定

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

場所: 秋田県立大学本荘キャンパス

大会組織委員長: 嶋崎 真仁 先生

テーマ: 「教育と経営工学」

[II] 会誌その他の図書刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) 日本経営工学会論文誌 (Journal of Japan Industrial management Association):

日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.70, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2019 年 04 月 15 日	70	1	1,400
2019 年 07 月 15 日	70	2, 2E	1,400
2019 年 10 月 15 日	70	3	1,400
2020 年 01 月 15 日	70	4, 4E	1,300

原著論文 (調査研究) 3 件, 原著論文 (理論・技術) 10 件, 原著論文 (事例研究) 6 件, 研究速報 1 件を収録した。

(2) 経営システム (Communications of JIMA): 経営システム誌編集委員会

Vol.29, No.1・No.2 を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2019 年 07 月 15 日	29	1	1,800
2020 年 01 月 15 日	29	2	1,800

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款 4 条第 3 号) 2019 年度 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告: 表彰委員会

(1) 学会賞 (学術)

森川克己 (広島大学)

対象業績: 生産計画分野における数理モデルを用いた研究活動および発展への貢献

推薦理由:

森川克己氏は、本学会の研究分野を構成するいくつかの領域の中でも“生産管理”や“生産計画”といった重要かつ中心的なテーマを対象とし、数多くの研究成果をあげている。特に、ジョブショップスケジューリングに関して精緻で示唆に富んだ研究を長年に渡って続けており、

これから展開されるスマート工場の設計・運営に活用される可能性が高いものとなっている。また、何れの研究も多くの周辺分野の模範的な研究として認められており、森川氏の医療機関の診察順序決定に関する研究成果は、生活において非常に身近な題材であり、かつ超高齢化社会における問題解決手段の 1 つとして着目されている。なかでも、森川氏は診療予約のない患者の外来状況を考慮して診察順序を決定するなど、卓越した見識を持って実情を反映した研究に取り組んでおり、経営工学の実践と発展へ大きく貢献している。

さらに、日本経営工学会論文誌へ合計 17 編 (うち、筆頭著者としてが 9 件) の論文が採択されており、JIMA への貢献の高さが伺える。近年は、森川氏が筆頭になる研究論文だけでなく、共著者としても多くの論文が採択されており、JIMA を通してご自身の研究活動のみならず、後進の育成、指導にも精力的に力をいれていることが伺える。

以上の理由により、森川克己氏を学会賞 (学術) をもって顕彰する。

論文リスト: <日本経営工学会論文誌から抜粋>

Results-based Production Ordering Systems: A Review and Research Issues, Katsuhiko TAKAHASHI, Katsumi MORIKAWA, 日本経営工学会論文誌, 2011 年 62 巻 3 号 109-116

A New Heuristic Method for Capacitated Lot-sizing in Multi-stage, Multi-machine Production Systems, Chao Rong, Katsuhiko Takahashi, Katsumi Morikawa, 本経営工学会論文誌, 2005 年 56 巻 5 号 313-320

アクティブスケジュールの生成手続きに基づくジョブショップのメイクスパン最小化, 森川克己, 日本経営工学会論文誌, 2004 年 55 巻 1 号 9-15

Single-machine Robust Scheduling with a Common Due Date Considering the Weighted Sum of Earliness and Tardiness, Katsumi MORIKAWA, Shinsuke HIRATA, Katsuhiko TAKAHASHI, Daisuke HIROTANI, 日本経営工学会論文誌, 2011 年 61 巻 6 号 365-373

Reentrant Line Scheduling using Weighted Fair Queuing, Katsumi MORIKAWA, Katsuhiko TAKAHASHI, Daisuke HIROTANI, Takayuki KATAOKA, 日本経営工学会論文誌, 2009 年 60 巻 3 号 183-190

動的なラインバランシングとバッファサイズの設定による需要の非定常変動への適応, 高橋勝彦, 森川克己, 日本経営工学会論文誌, 2006 年 57 巻 4 号 278-288

分枝限定法によるジョブショップのメイクスパン最小スケジュールの探索に対するラグランジュ緩和法の活用, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 2003 年 53 巻 6 号 466-473

処理時間の不確実性を考慮したジョブショップのメイクスパン最小スケジュールに関する研究, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 2001 年 52 巻 5 号 211-220

処理時間の不確実性を考慮したジョブショップのメイクスパン最小スケジュールに関する研究, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 2001 年 52 巻 4 号 211-220

需要の不確実性を考慮した 2 つの生産計画モデルの数値比較実験, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌,

2000 年 51 巻 3 号 227-236

ジョブショップの生産計画とスケジューリングに対する最適化アプローチ, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 2000 年 51 巻 3 号 168-176

ジョブショップに対する分散型スケジューリング, 森川克己, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 1999 年 50 巻 5 号 290-298

動的 MTS/MTO ハイブリッドシステムに対する在庫管理方針, 神田翔平, 高橋勝彦, 森川克己, 日本経営工学会論文誌, 2016 年 67 巻 1 号 20-28

外来患者の平均待ち時間を考慮した診察順序決定, 森川克己, 高橋勝彦, 広谷大助, 日本経営工学会論文誌, 2013 年 64 巻 2 号 119-127

ボトルネック区間が存在する自己バラン斯拉インの解析, 広谷大助, 森川克己, 高橋勝彦, 日本経営工学会論文誌, 2010 年 61 巻 1 号 1-10

戻る時間を考慮した自己バラン斯拉インの解析, 広谷大助, 森川克己, 高橋勝彦, 日本経営工学会論文誌, 2006 年 57 巻 5 号 388-394

自己バランス機能を備えた生産ラインの解析, 広谷大助, 森川克己, 高橋勝彦, 日本経営工学会論文誌, 2005 年 56 巻 3 号 155-163

地域卸売業の経営課題と今後の事業拡大方向に関する調査分析, 片岡隆之, 森川克己, 高橋勝彦, 中村信人, 日本経営工学会論文誌, 2003 年 54 巻 1 号 60-70

(2) 学会賞 (功労)

該当者なし

(3) 論文賞

古家直樹, 永原聡士, 末光一成 (日立製作所), 植木隆雄 (日立物流), 荒宏規 (日立製作所), 嶋津泰毅 (日立物流)

「在庫格納期間を加味した逐次処理型の倉庫内格納先推奨技術の開発」日本経営工学会論文誌 Vol.70, No.2, pp.81-93

推薦理由:

本論文では、倉庫内での作業員の作業効率化や作業自体の自動化・機械化に向けて、格納対象商品が格納直前まで判明しない状況でも、出庫作業生産性の高い在庫配置を実現するための商品配置決定方法を提案している。物流業界では深刻な人手不足が叫ばれているが、出庫作業に掛かる作業時間の比率が半数以上を占めるといわれることから、限られた作業員で出庫作業を効率的に行うためには商品配置の最適化が必要である。本論文は、既存の研究が事前に格納される商品が判っていることを前提にしていることに対し、現実には格納直前まで格納対象商品が判らないことに着目して、逐次的に格納先の処理を行う格納先推奨技術を開発し、実証実験によって既存手法と比較し、その優位性を示している。さらに、シミュレーション実験による評価も実施することで、提案手法の有効性に対するより精緻な評価と考察を実施している。

以上の理由により、本論文は経営工学的技術の発展と産業界での活用に寄与するものであり、論文賞の最終候補者として選出した。

(4) 論文奨励賞

該当なし

(5) 特別賞 経営システム賞

荒木真敬, 伴真秀, 沼田逸平 (日立製作所)

「デジタルトランスフォーメーション時代の事業創生」経営システム, Vol.29, No.1, pp.9-15

推薦理由:

本記事では、デジタル化の浸透によって我々の生活の利便性が飛躍的に向上する「デジタルトランスフォーメーション」時代において、デジタル技術による社会課題の解決策を模索し、ステークホルダーにとって価値ある事業を創生するための「顧客協創」についての取り組みを紹介している。顧客協創を支援するための手法・ツール、および協創空間を体系化した顧客協創方法論「NEXPERIENCE」を開発し、「ビジョンデザイン」と「顧客協創による事業創生」の 2 つのフェーズからなる事業創生について具体的かつ事例を挙げて説明している。これらの内容は今後の経営工学分野への即時実践の知見として、大いに資する部分があると考えられ、経営工学会の多くの会員にとって有益な記事である。以上の観点から、今後の経営工学の実践に対して大きなインパクトを与える記事であると考えられ、本記事を経営システム賞として選出した。

(6) 特別賞 経営工学実践賞

木村武弘, 平塚毅 (株式会社カネト製作所)

「生産技術部門の確立に向けた精密板金工場の改善～曲げ工程の段取り改善による効果の検証と今後の改善戦略の検討～」

推薦理由:

木村氏は働き方改革といった現代的な企業の課題の解決を目標に、IE 的手法を用いて地方の中小製造業における課題解決を図った取り組みを示しており、経営工学的手法の実践と発展に大きく貢献している。木村氏は、自らが在籍する地方の従業員約 60 名の精密板金加工業者における、人材不足、長時間労働などの中小企業ならではの様々な問題解決を図るため、大手工場に取り入れられているようなミズスマシの導入などにより業務の省人化を実現した。取り入れられた手法自体は、特に目新しい手法ではないが、地方の中小企業において経営工学による現代的な経営課題を解決する余地があることを示したことは、実践賞に相応しいと考える。

以上の理由により、木村氏、平塚氏を実践賞として選出した。

参考:

1) 生産技術部門の確立に向けた精密板金工場の改善～曲げ工程の段取り改善による効果の検証と今後の改善戦略の検討～, 日本経営工学会 2019 年秋季大会予稿集, pp. 97-99, 2019

(7) 特別賞 Best Presentation Award

2019 年秋季大会

受賞者	所属	演題
-----	----	----

佐々木 彩子	上智大学	使用済み複合機の選別拠点の数および配置を考慮した リバースロジスティクスネットワークの最適化
--------	------	--

(8) 特別賞 優秀学生賞

氏名	大学名	学部学科名
市川 亜沙妃	早稲田大学	創造理工学部経営システム工学科
永田 詩織	青山学院大学	理工学部経営システム工学科
匿名希望	首都大学東京	システムデザイン学部 経営システムデザインコース
郭 恆瑜	東京理科大学	理工学部経営工学科
佐々木 大晴	東海大学	情報通信学部 経営システム工学科
嶋崎 颯人	慶応義塾大学	理工学部管理工学科
松井 諒生	東京工業大学	工学院・経営工学系
高橋 淳	神奈川大学	工学部経営工学科
谷本 貴男	名古屋工業大学	工学部社会工学科
白井 雅貴	玉川大学	工学部 マネジメントサイエンス学科
浅野 実	電気通信大学	情報理工学域 I 類 経営・社会情報学プログラム
白井 里奈	秋田県立大学	システム科学技術学部 経営システム工学科
奈部 和也	金沢工業大学	情報フロンティア学部 経営情報学科
藤沼 翔太	東京都市大学	知識工学部 経営システム工学科
関根 晴矢	千葉工業大学	社会システム科学部・ プロジェクトマネジメント学 科
岡本 雄貴	千葉工業大学	社会システム科学部 経営情報科学科
峰 慶汰	長崎総合科学大学	総合情報学部総合情報学科
西村 優花	福岡工業大学	情報工学部 システムマネジメント学科
伊藤 翼	法政大学	理工学部経営システム工学科
山下 真生	近畿大学	工学部情報学科
加藤 尚瑛	成蹊大学	理工学部情報科学科
畑田 良明	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学科
大沼 悠人	筑波大学	理工学群社会工学類 経営工学主専攻

以上 23 名

[IV] 調査, 研究, 見学及び視察 (定款第 4 条第 4 号)

支部及び研究部会を通して以下の通り活動した。

(1) 支部活動計画：支部委員会

1) 東北・北海道支部

ー北海道, 青森, 岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島

支 部 長：竹野 健夫 (岩手県立大学)

副支部長：嶋崎 真仁 (秋田県立大学)

事 務 局：〒020-0693

岩手県滝沢市巣子 152-52

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

竹野 健夫

E-mail : take@iwate-pu.ac.jp

① 支部総会

日 時：2020 年 3 月 5 日 (木)

会 場：秋田県立大学本荘キャンパス大学院棟 D-603

出席者：4 名

議 題：

(ア) 2019 年度支部事業, 中間決算報告

(イ) 2020 年度支部事業計画, 予算案

(ウ) 役員 (運営委員等) について

(エ) その他

② 運営委員会 (5 回)

2019 年 9 月 20 日 (金), 21 日 (土)

2019 年 12 月 16 日 (月)

2020 年 1 月 15 日 (水), 29 日 (水)

会 場：電子メール会議

③ 研究発表会 (1 回)

日 時：2020 年 3 月 5 日 (木)

会 場：秋田県立大学本荘キャンパス大学院棟 D-603

発表件数：4 件

参加者：7 名

④ その他

特になし

⑤ 支部所属会員数 (2020 年 3 月末)

正会員数 31 名, 名誉会員数 0 名,

学生会員数 7 名, 賛助会員数 0 社

2) 関東支部

ー茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨

支 部 長：熊谷 敏 (青山学院大学理工学部)

副支部長：飯島 俊文 (Q & T マネジメント研究所)

斎藤 正武 (中央大学 商学部)

中島 裕司 (富士通㈱)

事 務 局：〒152-8552

東京都目黒区大岡山 2-12-1-W8-29

東京工業大学 情報理工学院

山下研究室内

事務局担当者名 山下 真

E-mail : Makoto.Yamashita@c.titech.ac.jp

<https://sites.google.com/view/jima-kanto/>

① 支部委員会 (第 1 回) : メール審議

日 時：2019 年 6 月 1 日 (土)

議 題：

(ア) 2018 年度事業及び収支決算報告について

(イ) 2019 年度事業計画及び収支予算について

(ウ) 学生論文発表会の開催校について

(エ) 関東支部研究交流会の開催方法について

(オ) 支部運営委員の増員に向けて

- ② 支部委員会（第2回）
 日 時：2019年10月5日（土）
 会 場：東京都市大学サテライトクラス
 出席者：7名
 議 題：
 （ア）学生論文発表会の準備状況確認
 （イ）2019年度予算使用状況について
 （ウ）2020年度事業計画及び収支予算についての意見交換
 （エ）関東支部研究交流会の開催方法についての意見交換
- ③ 研究交流会（第1回）
 日 時：2020年1月25日（土）
 会 場：ビジネストラנסファー6階会議室A
 講 師：顧 秀珠 氏
 （東京工業大学 経営工学系 助教）
 演 題：A cross-cultural comparison of patient safety and quality in Japanese and Chinese hospitals
 講 師：杉之内 将大 氏
 （青山学院大学 経営システム工学科 助教）
 演 題：顧客の嗜好や意見を取り入れる生産システム
 参加者：13名
- ④ 支部委員会（第3回）
 [新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
 日 時：2020年2月28日（金）
 会 場：中央大学 後楽園キャンパス
 議 題：
 （ア）次年度以降の運営について
 （イ）研究交流会の講演者候補について
- ④ 学生論文発表会
 [新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
 日 時：2020年2月28日（金）
 会 場：中央大学 後楽園キャンパス
 発表件数：53件
- ⑤ 支部委員会（第4回）：メール審議
 日 時：2020年3月9日（月）
 議題：
 （ア）次年度の学生論文発表会について
 （イ）研究交流会での講演者候補について
 （ウ）工場見学の計画について
 （エ）人材育成講演会での講演者候補について
- ⑥ 支部所属会員数（2020年3月末）
 正会員数 574名，名誉会員数 18名，
 学生会員数 112名，賛助会員数 8社

3) 中部支部

—愛知，岐阜，三重，静岡

支 部 長：荒川 雅裕（名古屋工業大学）

事 務 局：〒466-8555

名古屋市長和区御器所町

名古屋工業大学工学部都市社会工学科内

事務局担当者名 荒川 雅裕

TEL：052-735-7408

E-mail：arakawa.masahiro@nitech.ac.jp

http://www.jiminet.jp/office/branch/chubu/

- ① 講演会（1回）

日 時：2020年2月20日（火）

会 場：名古屋工業大学2号館3階0231教室

講演1：

講 師：Rajshahi University of Engineering & Technology
 （バングラデシュ），助手

ISLAM MD MOHIBUL 氏

演 題：Multi Product Multi Period Aggregate Production Planning in an Uncertain Environment

講演2：

講 師：VALUENEX，ソリューション事業推進本部，
 事業開発チーム・コンサルティングチーム
 マネジャー 関根 宏 氏

演 題：VALUENEXにおけるビッグデータ解析を用いたビジネス戦略の取り組み

参加者：18名

- ② 研究発表会（1回）

日 時：2020年2月20日（火）

会 場：名古屋工業大学2号館3階0231教室

発表件数：7件

参加者：18名

- ③ 支部所属会員数（2020年3月末）

正会員数 97名，名誉会員数 4名，

学生会員数 13名，賛助会員数 3社

4) 北陸支部

—石川，富山，福井，新潟，長野

支 部 長：中野 真（金沢工業大学）

副支部長：石原 正彦（金沢工業大学）

事 務 局：〒921-8501

野々市市扇が丘7-1

金沢工業大学基礎教育部修学基礎教育課程

事務局担当者名 中野 真

TEL：076-248-9758

FAX：076-294-6701

E-mail：mnakano@neptune.kanazawa-it.ac.jp

http://jima-hokuriku.labos.ac/

- ① 運営委員会

- ② 事例研究会（（一社）日本品質管理学会中部支部共催，
 （一社）日本生産管理学会中部支部共催）

日 時：2019年5月11日（土）

会 場：石川県女性センター

講演1：研究の紹介

講師1：越野 亮（石川工業高等専門学校）

講演2：「すべての人が好きなスポーツに関わる社会へ」

講師2：伊藤 数子（NPO法人 STAND）

参加者：8名

- ③ 学生論文発表会（（一社）日本品質管理学会中部支部共催）

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

- ③ 支部所属会員数（2019年3月末）

正会員数 34名，名誉会員数 0名，

学生会員数 1名，賛助会員数 1社

5) 関西支部

—大阪，京都，兵庫，和歌山，奈良，滋賀

支 部 長：田村 豊（田村 IE 技術士事務所）

副支部長：寺島 和夫（龍谷大学）

事 務 局：〒577-8502

大阪府東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学理工学部機械工学科

生産マネジメント工学研究室内

事務局担当者名 竹本 康彦

TEL：06-4307-4330

E-mail：jima.kansai@gmail.com

<https://sites.google.com/site/jimakansai/>

① 支部総会

日 時：2019 年 6 月 29 日（土）

会 場：大阪工業大学梅田キャンパス会議室 301・302

出席者：35 名

議 題：

（ア）2018 年度支部事業報告

（イ）2018 年度支部決算報告

（ウ）2019 年度支部事業計画案

（エ）2019 年度支部予算案

（オ）支部役員の改選

（カ）その他

特別講演（日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会共催）

題 名：次世代生産現場への取り組み～人にこだわるモノづくり～

講 師：深見 拓也（東洋紡株式会社）

② 委員会（5 回）

（ア）第 1 回運営委員会

日 時：2019 年 6 月 29 日（土）

会 場：大阪工業大学梅田キャンパス会議室 301・302

出席者：10 名

（イ）第 2 回運営委員会

日 時：2019 年 8 月 6 日（火）

会 場：龍谷大学梅田キャンパス研修室

出席者：10 名

（ウ）第 3 回運営委員会

日 時：2019 年 10 月 17 日（木）

会 場：アプローズタワー13 階貸会議室 12 号室

出席者：9 名

（エ）第 4 回運営委員会

日 時：2019 年 12 月 11 日（水）

会 場：大阪工業大学梅田キャンパス 9 階会議室

出席者：7 名

（オ）第 5 回運営委員会

日 時：2020 年 2 月 25 日（火）

会 場：龍谷大学梅田キャンパス研修室

出席者：9 名

③ セミナー（2 回）

（ア）第 1 回経営工学セミナー（日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会共催）

日 時：2019 年 10 月 17 日（木）

会 場：アプローズタワー13 階貸会議室

題 名：ものづくりの後発逆転現象に関する考察—日本のものづくり戦略にどう活か

すか？—

講 師：長野 寛之（兵庫県立大学）

題 名：生産現場での IoT 活用による生産性向上とサプライチェーン情報を活用した購買 BCP 対応

講 師：吉井 実（オムロン株式会社）

出席者：33 名

（イ）第 2 回経営工学セミナー（日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会共催）

日 時：2020 年 2 月 25 日（火）

会 場：龍谷大学 梅田キャンパス研修室

題 名：新興国企業の成長戦略—中国自動車産業が語る“持たざる者”の強み

講 師：李 澤建（大阪産業大学）

題 名：オープンイノベーション理論と価値創造

講 師：前川 知浩（サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社）

出席者：20 名

④ 見学会（2 回）

（ア）第 1 回工場見学会（日本設備管理学会関西支部共催）

日 時：2019 年 10 月 23 日（水）

会 場：パナソニック（株）アプライアンス社 スマートエネルギーシステム事業部 草津工場

参加者：15 名

（イ）第 2 回工場見学会（日本設備管理学会関西支部共催）

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

日 時：2020 年 3 月 4 日（水）

会 場：株式会社イムラ封筒

⑤ 学生論文発表会（1 回）

（日本経営システム学会関西支部共催，日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会協賛）

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

日 時：2020 年 2 月 29 日（土）

会 場：大阪工業大学大宮キャンパス

発表件数：14 件

⑥ 支部所属会員数（2020 年 3 月末）

正会員数 143 名，名誉会員数 4 名，

学生会員数 3 名，賛助会員数 3 社

6) 中国四国支部

一鳥取，島根，岡山，広島，山口，香川，愛媛，高知，徳島

支 部 長：石原 晃（大島商船高専）

副支部長：神垣 保持（広島国際学院大学）

増岡 隆弘（マツダ㈱）

森川 克己（広島大学）

事 務 局：〒734-8558

広島市南区宇品東 1 丁目 1-71

県立広島大学経営情報学科内

事務局担当者名 広谷 大助

TEL：082-251-9737

FAX : 082-251-9405
E-mail : cs.jima@gmail.com
<https://sites.google.com/site/cs.jima/>

① 支部総会

日 時 : 2019 年 6 月 8 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
出席者 : 18 名 (委任状 7 名を含む)
議 題

- (ア) 2018 年度支部事業報告・決算報告
- (イ) 2019 年度・2020 年度支部役員承認について
- (ウ) 2019 年度事業計画・収支予算等
- (エ) その他

② 支部運営委員会 (2 回)

- (ア) 第 1 回
日 時 : 2019 年 6 月 8 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
出席者 : 17 名 (委任状 7 名を含む)
- (イ) 第 2 回
日 時 : 2019 年 12 月 14 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
出席者 : 15 名 (委任状 8 名を含む)
- (ウ) 第 3 回
[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
日 時 : 2020 年 2 月 29 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま

③ 講演会 (2 回)

- (ア) 第 1 回
日 時 : 2019 年 6 月 8 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
参加者 : 11 名
題 目 : クラシファイアシステムの基礎とニューラルネットワークとの融合による
応用事例紹介
講 師 : 林田 智弘 氏 (広島大学大学院工学研究科)
- (イ) 第 2 回
(一般社団法人日本生産管理学会研究部会「ビッグデータ時代の生産管理と物流管理」及び一般社団法人日本ロジスティクスシステム学会中国四国支部共催)
日 時 : 2019 年 12 月 14 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
参加者 : 17 名
題 目 : 混合組立ライン問題―部品の平準化からメイクスパン最小化まで―
講 師 : 倉重 賢治 氏 (鹿児島県立短期大学)
題 目 : 部品のピッキング遅れを考慮した混合ラインの生産順序に関する考察
講 師 : 徐 祝旗 氏 (愛媛大学)
- (ウ) 第 3 回
[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
日 時 : 2020 年 2 月 29 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
題 目 : 外観検査の改善活動の方法論と AI 活用
講 師 : 中嶋 良介 氏 (電気通信大学大学院理

工学研究科)

⑤ 見学会 (1 回)

日 時 : 2019 年 9 月 20 日 (金)
会 場 : 株式会社ディスコ
参加者 : 11 名

⑥ 学生論文発表会 (1 回)

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
日 時 : 2020 年 2 月 29 日 (土)
会 場 : サテライトキャンパスひろしま
発表件数 : 26 件

⑦ 支部表彰

支部長賞 : 3 件

⑧ 支部所属会員数 (2020 年 3 月末)

正会員数 65 名, 名誉会員数 2 名,
学生会員数 9 名, 賛助会員数 1 社

7) 九州支部

ー福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 長崎, 宮崎, 鹿児島, 沖縄
支 部 長 : 徂徠 三十六 (日本文理大学)
副支部長 : 宋 宇 (福岡工業大学)
河内 明人 (AK マネジメントパートナー)
事 務 局 : 〒811-0295
福岡市東区和白東 3-30-1
福岡工業大学情報工学部
システムマネジメント学科内
事務局担当者名 田嶋 拓也 (Ms. 道下)
TEL : 092-606-5930
FAX : 092-606-0756
E-mail : kanjim@fit.ac.jp
<http://www.fit.ac.jp/~t-tajima/JIMA/>

① 支部総会

日 時 : 2019 年 5 月 25 日 (土) 13:10-13:40
会 場 : 福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3
参加者 : 19 名 (委任状 9 名を含む)

(ア) 議題

- A) 会員在籍状況・入退会状況報告
 - B) 2018 年度事業報告
 - C) 2018 年度会計 (決算) 報告
 - D) 2019 年度事業計画, 役員
 - E) 2019 年度予算
 - F) その他 2019 年度第 2 回研究会についてなど
 - G) 総会終了後表彰
- (イ) 意見交換会

② 運営委員会 (支部幹事会) (3 回)

(ア) 第 1 回

日 時 : 2019 年 7 月 20 日 (土) 12:00-13:10
会 場 : J:COM ホルトホール 407 号室
参加者 : 15 名 (委任状 5 名を含む)

(イ) 第 2 回

日 時 : 2019 年 12 月 14 日 (土) 13:00-13:40
会 場 : 福岡工業大学 B 棟 8 階研究室 1
参加者 : 19 名 (委任状 6 名を含む)

(ウ) 第 3 回

日 時 : 2020 年 5 月 23 日 (土)
会 場 : 福岡工業大学 B 棟 8 階研究室 1

③ 定例セミナー (1 回)

(協賛 日本生産管理学会九州支部主催)

日 時：2019 年 12 月 14 日 (土)

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

第 1 発表 13:50-14:50

題 名：製品開発におけるアイデア発想手法

講 師：祖徠 三十六 (日本文理大学)

第 2 発表 15:00-16:00

題 名：情報セキュリティの組織的管理のススメ
～セキュリティ、経営トップがキーパーソン～

講 師：上繁 義史 (長崎大学)

第 3 発表 16:10-17:10

題 名：潜在能力の顕在化 (Visibility Of Latent Ability)
法を用いた (電動機応用) 新製品開発による
新事業創出の成功・要改善の判別方法

講 師：黒江 浩 (黒江技術士事務所)

参加者：15 名

④ 研究会 (2 回)

(ア) 第 1 回

日 時：2019 年 5 月 25 日 (土)

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

第 1 発表：13:50-14:50

題 名：高専 5 年間の経営教育に有効なマネジメントゲームの開発について

講 師：挾間 雅義 (宇部工業高等専門学校)

第 2 発表：15:00-16:00

題 名：Supernetworks and Systemic Risk

講 師：傅 靖 (福岡工業大学)

第 3 発表：16:10-17:10

題 名：グラフエンに関する研究と MBE 成長

講 師：前田 文彦 (福岡工業大学)

参加者：12 名

(イ) 第 2 回

日 時：2019 年 7 月 20 日 (土)

場 所：J:COM ホルトホール 407 号室

第 1 発表 13:20-14:20

題 名：ICT と大学の授業について

講 師：大塚 淳子 (コンサルティング Office ジェイティス)

第 2 発表 14:30-15:30

題 名：2000 年以降の量的緩和と銀行貸出経路

講 師：卓 涓涓 (日本文理大学)

第 3 発表 15:40-16:40

題 名：日本国内の製造企業における企業内 SNS の活用

講 師：阿部 裕香里 (日本文理大学)

参加者：13 名

⑤ 第 46 回学生論文発表会

日 時：2020 年 2 月 22 日 (土) 13:00-17:05

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

発表件数：9 件

参加者：21 名

⑥ 見学会

(日本生産管理学会九州支部 (JSPM) と共催)

日 時：2019 年 8 月 1 日 (木) 12:30-16:00

会 場：トヨタ自動車九州工場

参加者：37 名

⑦ 学生会講義会

日 時：2019 年 12 月 13 日 (金) 14:20-17:50

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

題 名：Excel でシミュレーションしよう！

講 師：祖徠 三十六 (日本文理大学)

受講生：8 名

⑧ 支部所属会員数 (2020 年 3 月末)

正会員数 37 名，名誉会員数 0 名，

学生会員数 0 名，賛助会員数 0 社

(2) 研究部門・研究プロジェクト活動：研究委員会

1) 生産・物流部門

(部門長：蓮池 隆)

① 概要

本部門では、サプライチェーンにおける生産・物流に関する課題に対して、調査研究、理論研究および事例研究を通して多角的に取り組み、解決を目指すことを目的とする。今年度は、この目標の達成に向けて、2019 年 12 月に金沢で開催された APIEMS2019 にて部門 OS を実施した。また、2020 年 3 月に産学連携ワークショップを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

② 研究部門活動報告

運営委員会

(ア) 運営委員会

日 時：2019 年 3 月 25 日 (水) ～27 日 (金)

場 所：新型コロナウイルス感染症の影響によりメールベースの会議

参加者：9 名

議 題：

A) 2019 年度生産物流部門活動報告について

B) 2020 年度生産物流部門活動計画について

C) その他

③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 2020 年春季 JIMA 研究部門オーガナイズドセッション

A) 蓮池 隆 (早稲田大学)，加島 智子 (近畿大学)，松本 慎平 (広島工業大学)：

ナッシュ交渉解を利用した農産物流通の全体最適化に関する一考察

B) 長谷美 達彦，山田 哲男，鈴木 恵大，木下 雄貴 (電気通信大学)：

ウェブ古着再生販売のビジネスプロセスの可視化に関する事例研究

C) 五十嵐 健人，山田 哲男 (電気通信大学)：

分解部品選択を考慮したラインバランシングの研究と課題

(イ) APIMES2019 生産物流部門 OS

～Sustainable Supply Chain Management～

日 時：2019 年 12 月 4 日 (水) ・5 日 (木)

場 所：ホテル金沢

発表件数：3 セッション，14 件

Sustainable Supply Chain Management 1

1. Yosi Hidayat and Caroline Asaloei

Determination of Ordering Policy in Warehouse Layout Design Using Knapsack Problem and

- Class-Based Storage Policy Approaches
2. Fang Yi, Sato Kimitoshi and Nakashima Kenichi
A study on Internet of Things embedded Closed-Loop Supply Chain System
3. Yuta Kitano, Tetsuo Yamada and Kim Hua Tan
A SNS Analysis of Japanese Manufacturers Using Text Mining
4. Docki Saraswati, Debbie Kemala Sari and Shelina Putri Kurniadi

Batch production scheduling in parallel machines with simulated annealing using python to minimize total tardiness

Sustainable Supply Chain Management 2

1. Takato Nakatani and Etsuko Kusakawa
Optimal Operation of Supply Chain with a Hybrid Production Mode under Carbon Emissions and Cap-and-Trade Policy
2. Takashi Hasuiki, Tomoko Kashima and Shimpei Matsumoto

Sustainable production and delivery system of agricultural products considering the local production for local consumption

3. Takuhiro Shimogama and Etsuko Kusakawa
Optimal Operation in a Green Supply Chain considering Carbon Emissions and Energy-Saving under Government's Environmental Measures and Cost Sharing
4. Phajongjit Pijitbanjong, Udompong Ketsripongso, Rapepan Pitakaso, Paroon Mayachearw and Chaiya

Chomchalao

Modified Differential Evolution Algorithm for Solving Economic Crop Planning in the Northeastern Region of Thailand

Sustainable Supply Chain Management 3

1. Yen-Shuo Chen and Chin-Yin Huang
Increasing the Accuracy of Forecasting can Eliminate Bullwhip Effect in Supply Chains
2. Mariah and Sukoyo
A Mixed Integer Linear Programming and Genetic Algorithm to Solve Waste Collection Routing Problem
3. Tomoaki Yatsuka, Aya Ishigaki, Yuki Kinoshita, Tetsuo Yamada and Masato Inoue
Collaboration method of single-vendor multi-buyer supply chain using multi-player linear physical programming
4. Tomoki Oshima and Aya Ishigaki
Effects of planned transshipment in the buyer-dominated supply chain under uncertain demand environment
5. Hiroshi Kuroki, Aya Ishigaki, Ryuta Takashima and Shinichirou Morimoto
An economic evaluation of product recovery plan in rare earth elements recycling business in Japan
6. Keisuke Nagasawa, Katsumi Morikawa,

Katsuhiko Takahashi and Daisuke Hirotsu

Sustainable closed-loop supply chain with capacity consideration under disruption scenarios

(ウ) 第7回産学交流ワークショップ

日時：2020年3月1日(日)

場所：県立広島大学・サテライトキャンパス
ひろしま・503会議室

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

2) 事業・市場部門

(部門長：新目 真紀)

① 概要

本部門では製造業を対象に事業・市場を創造・維持するための運用方法をIoTやAIの先端技術を利用して構築することを目的とする。具体的には、製造業を対象にPLMやSCMの効率的な運用のための情報システムの設計、開発、運用方法や製品とサービスを混在化した設計・開発をIoTやAI技術を利用した方法論の提案、それらを実現するための現実場への導入と教育手法の検討などを行う。

本研究部門においては、青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社主催の「未来戦略デザイン推進会議(PSCC-LM)」の研究プロジェクトの一部と連携し、研究を進めている。「未来戦略デザイン推進会議(PSCC-LM)」では製造業(プロジェクトマネジャーなど)、コンサルティング(SI, SE)、大学関係者による研究会を月一回程度開催し、国内外でのPLMおよびIoTやAI技術及びスマート製品やプラットフォーム・サービスについて議論するとともに、調査、開発を行っている。この研究会は日本経営工学会会員外を含み、選定を含めた専門技術者による非公開(年1回の公開フォーラムあり)の研究会である。また、事業運用のための教育用プログラムを開発し、青山学院大学や名古屋工業大学の学部教育課程、社会人教育課程等に導入、運用、検証を行った。

これらの研究成果は日本経営工学会春季・秋季大会のOSを通して公開している。

② 研究部門活動報告

- (ア) 日本経営工学会 2019 年秋季大会 (タワーホール船堀) 研究部門 OS にて研究報告 (OS : 1 件, 発表 : 3 件)
OS 名 : 「未来戦略デザインの展望」
- (イ) The 20th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems conference (APIEMS 2019) December 2-5, 2019, Kanazawa (OS : 1 件, 発表 : 5 件)
OS 名 : 「Future Strategy Design」
- (ウ) 日本経営工学会 2019 年春季大会 (秋田県立大学) 研究部門 OS にて研究報告 (OS : 2 件, 発表 : 5 件エントリー)
OS 名 : 「未来戦略デザインの展望」
[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]
- (エ) 未来戦略デザイン推進会議の開催 (非公開)
(第1回) 2019年4月18日(木), (第2回) 2019年5月23日(木), (第3回) 2019年6月20日(木), (第4回) 2019年7月25日(木),

(第5回) 2019年9月26日(木), (第6回) 2019年10月24日(木), (第7回) 2019年11月14日(木), (第8回) 2019年12月12日(水), (第9回) 2020年1月30日(木), (第10回) 2020年3月26日(木), すべて18:30-20:30, 場所: 青学 Hicon セミナールーム

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2019 年春季大会

2019 年 9 月 9 日(月) タワーホール船堀

- A) 新目 真紀(職業能力開発総合大学校), 玉木 欽也(青山学院大学): 未来戦略デザインビジネスプロデューサー育成プログラムの検討ーAI (IBM Watson) を活用した授業支援の設計ー

- B) 玉木 欽也(青山学院大学), 佐久田 博司(青山学院大学), 新目 真紀(職業能力開発総合大学校), 小野 好之(青山学院 Hicon): 未来戦略デザイン・システムクリエーター育成プログラムの設計ーIoT コースの実証と未来戦略デザイン・オープンラボの構想ー

- C) 荒川 雅裕(名古屋工業大学), 間瀬 好康(愛知工業大学), 石田 健祐(名古屋工業大学): 製造業の事業継続に対するロボット Sler を利用した生産マネジメント法の検討

(イ) APIEMS 2019

2019 年 12 月 3 日金沢

- A) 新目 真紀(職業能力開発総合大学校), 半田 純子(職業能力開発総合大学校), 玉木 欽也(青山学院大学)

“Business Producer Development Program for Future Strategic Design -Design a process to provide customer experience value in all aspects of customer interaction-”

- B) 玉木 欽也(青山学院大学), 新目 真紀(職業能力開発総合大学校), 小野 好之(青山学院 Hicon)

“Development and Demonstration of Adult Educational Programs for System Creators in Future Strategy Design in Action Project Group Activities Through Industry-University Cooperation”

- C) 平林 裕治(青山学院 Hicon), 玉木 欽也(青山学院大学), 新目 真紀(職業能力開発総合大学校)

“Case study of smart city by the future strategic design”

- D) 間瀬 好康(愛知工業大学), 荒川 雅裕(名古屋工業大学), 石田 健祐(名古屋工業大学)

“Discussion of production management method using Robot System Integrator and IoT System Integrator for continuity of manufacturing business”

- E) 荒川 雅裕(名古屋工業大学), 野末 卓(名古屋工業大学), 阿部 武志(青山学院 Hicon), 玉木 欽也(青山学院大学)

“A Proposal of a method of product planning and basic product design considering service for enhancement of commercial value”

(ウ) 日本経営工学会 2020 年秋季大会

2020 年 3 月 6 日(土) 秋田県立大学

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

(エ) 論文掲載

Kinya Tamaki, Masahiro Arakawa, Maki Arame and Yoshiyuki Ono: Development of Educational Programs for System Creators and Business Producers in Future Strategy Design Based on Action Project Group Activities through Industry-University Cooperation, Journal of Mechanics Engineering and Automation, Vol.9, No.7, pp.243-247 (2019) .)

3) サービス部門

(部門長: 三原 康司)

① 概要

2019 年度は, 2018 年度に引き続き人間・組織部門と共に, サービス生産性, 品質といったキーワードを検討し, 来年度以降の活動の方向を考察した。

具体的な活動としては, 人間・組織部門と共同で, 春季大会でのオーガナイズドセッション, 1 回のサービス事例講演会と事業所訪問, そして定例の研究部門運営委員会を企画したが, 新型コロナウイルス感染症の影響により 1 回の講演会のみ開催した。

② 研究部門活動報告

運営委員会

(ア) 日 時: 2018 年 8 月 21 日(水)

場 所: 早稲田大学西早稲田キャンパス

内 容: 人間・組織部門と共同。2018 年度活動報告, 2019 年度計画検討, 2019 年度春季大会 OS 検討, その他

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 2019 年春季大会研究部門オーガナイズドセッション 人間・組織部門と共同

- A) 公園遊具の安全性管理における転落事故時の危険評価」早稲田大学 加藤 麻樹

- B) 「時間制運賃の庸車を考慮した配送計画に関する研究〜大田市場における青果仲卸業の配送業務改革〜」早稲田大学 岩島 克也

- C) 「事業ハピネス向上のためのトータル・サービスシステム設計ーインターナル・サービス価値の認識ー」千葉工業大学 三原 康司

(イ) 第 1 回サービス・人間組織部門合同講演会
テーマ: 「HAL 研究」

講演者: 安永 好宏 様, サイバーダイナ社

日 時: 2019 年 12 月 16 日(月)

会 場: 東海大学高輪キャンパス

(ウ) 第 2 回サービス・人間組織部門合同講演会
テーマ: サイバーダイナ社訪問・見学

講演者: 安永 好宏 様, サイバーダイナ社

日 時: 2020 年 3 月 24 日(水)

会 場: サイバーダイナ・スタジオ

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

4) 経営情報部門

(部門長: 関 庸一)

① 概要

2019年度の経営情報部門は、前年度に引き続き、経営科学系研究部会連合協議会によるデータ解析コンペティションの一部会として参加し、部門主催の形で「データ解析コンペティション JIMA 予選会」を開催した。今年度は、みずほ情報総研株式会社協力のもと、都内タクシープローブデータの分析コンペティションが行われ、合計 18 チームが参加して、データ解析の技術と切り口を競った。聴講者も含め、JIMA 内外からの多くの参加があり、中間発表会における情報共有を実施した。しかし、最終成果発表会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、書類に基づいた審査を行った。これらの各チームによる分析結果は、各チームより日本経営工学会秋季大会等の場で順次発表がなされる予定である。

② 研究部門活動報告

(ア) 2019 年 11 月 30 日 (土) : データ解析コンペティション JIMA 予選会中間発表会を共催した。

場 所 : 東海大学高輪キャンパス

参加チーム : 18 チーム

参加者 : 58 名

(イ) 2019 年 2 月 25 日 (日) : データ解析コンペティション JIMA 予選会最終発表会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。

場 所 : 東海大学高輪キャンパス

参加チーム : 18 チーム

(ウ) 2019 年 3 月 : データ解析コンペティション成果報告会を共催する予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。

③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 2019 年 9 月 9 日 日本経営工学会秋季大会 経営情報部門オーガナイズドセッション : データ解析の実践教育における課題—研究プロジェクト

「大規模経営情報データ解析の実践的研究」報告—3 件の話題提供+パネルディスカッション

A) 山下 遥 (上智大学) : データ解析コンペティションを通して学んだこと—卒業生の視点から—

B) 田畑 智章 (東海大学) : 統計学や Excel もおぼつかない学部学生に対するデータサイエンス教育

C) 関 庸一 (群馬大学) : データ解析の実践教育における課題

(イ) 2019 年 12 月 4-6 APIEMS2019 経営情報部門オーガナイズドセッション : Perspectives on Data Analytics, 4 つのセッションにおいて 22 件の研究が発表された

A) Yuki Horita and Haruka Yamashita, Optimization of Advertisements on the Internet based on LSTM

B) Mana Takaya and Haruka Yamashita, Purchase Factor Analysis of Lactic Acid Bacteria Beverage by Logit Model

C) Ayako Yamagiwa, Yuto Seko, Tianxiang Yang and Masayuki Goto, An analytical model of users' communication on a chat system

D) Ai Ikeda, Masao Ueda, and Takeshi Moriguchi,

Criteria for Choosing Between a Cash or Credit Card Payment, Estimated by a Threshold Random Effects Model

E) Kyosuke Hasumoto and Masayuki Goto, Predicting Customer Churn of a Platform Business Using Latent Variables of Variational Autoencoder and Analysis of Customers' Purchasing Behaviors

F) Nathadet Kongsetthakul, Jiraporn Pradabwong and Natthavika Chansri, Parameter design and optimization of the filling and packaging of sweetened condensed coconut milk

G) Satoshi Suzuki, Manabu Kobayashi and Masayuki Goto, An Estimation Model of Life Change Point by Energy Consumption

H) Anas Laamrani and Masato Sasaki, Fuzzy Optimization of Portfolio using Interactive Genetic Algorithm and Artificial Neural Networks

I) Venusmar Quevedo, Francis Luis Evangelista, Mercado John Cassidy and Noime Fernandez, Causal Feature Selection Analysis for Stock Market Movement

J) Yan-Cheng Liu and Ching-Jung Ting, Station-level Ridership Forecast Models in a Bike-sharing Service

K) Fu Chuang and Ching-Jung Ting, Forecasting Bike Usage with Different Models in a Bike-Sharing System

L) Rina Tanaka, Aya Ishigaki, Tomomichi Suzuki, Masato Hamada and Wataru Kawai, Framework for Dynamic Inventory Replenishment Using Shipment Data of Logistics Warehouse in Apparel Products

M) Masayuki Goto, Estimation Problem of Linear Regression with High-Dimensional Sparse Supplementary Variables

N) Kenta Mikawa, Factorization Machine with Mixed Norm regularization using ADMM

O) Dewang Chen, Metro Operation Simulation System Driven by Big Data of Passenger Flow and its Intelligent Optimization

P) Zijing Guo, Junxiao Zhou and Jinwu Gao, Self-Planning via self-play based multi-agent reinforcement learning for Small-scale aerial combat

Q) Hoki Kim, Jaewook Lee and Taeho Yoon, Defending Against Adversarial Attack via Bayesian Neural Network

R) Yi -Ching Yeh and Chia-Yu Hsu, Application of Auto-Encoder for Time Series Classification with Class Imbalance

S) Tomonori Kitani, Jyun'pei Kawana and Yoichi Seki, Adaptive SOM anomaly detection for time series data

T) Chih-Hung Jen, Shu-Kai S. Fan, Yu-Ming Lu, Wan-Ting Chen and Sung-Ying Tsai, Using Big Data Analysis to Construct the Abnormal Diagnostic System for Wafer Test Platform

- U) Jakey Blue, Convolutional Correlation Structure Monitoring for Batch Process Diagnosis
- V) Chih-Hsuan Wang, A novel framework to forecast global shipments and price variations of memory chips

5) 経営数理部門

(部門長：皆川 健多郎)

① 概要

近年の複雑化した社会において、対象に応じてより適切なコスト管理が必要とされる。またマーケティングについてもベイジアンネットワーク等の新しい手法による実証研究がなされつつある。このようなより複雑化するシステムに対する管理手法とその効果、考察を深めた。

② 研究部門活動報告

(ア) APIEMS 2019, Kanazawa, JAPAN, December 2-5

A) Management Mathematics 1

Chair: Jing Sun

Decemembr 3 15:30-17:10

- Po-Ting Chen, Shih-Wan Sun, Yu-Ting Weng and Ruey-Huei Yeh Optimal Switch-Over Time to a New Generation Repairable Product with Weibull Lifetime
 - Thanakorn Miengarrom, Tuanjai Somboonwiwat and Chareonchai Khompataporn Two-process Production Planning with Mixed Supply and Multiple Products in Canned Pineapple Production Lines
 - Waranyoo Thippo, Chorkaew Jaturanonda, Sorawit Yaovasuwanchai and Charoenchai Khompataporn Heuristic Approach for Solving a Multi-objective Workforce Planning Problem of Rice Seeds Harvesting
 - Harumiko Sumi, Fumiya Tamura and Shuhei Inada A method for determining the storage position of goods in the warehouse by using greedy methods
 - Jinyu Zhang, Hisashi Yamamoto and Jing Sun An Optimal Assignment Production of Workers with Different Capacities for Each Process in Reset Limited-Cycle Problem with Multiple Periods
 - Anan Mungwattana and Suwitchaporn Witchakul A Mathematical Model for Solving Multi-Period Purchasing Planning Problem
- B) Management Mathematics 2
- Chair: Etsuko Kusakawa
- Decemembr 4 10:30-12:10
- Taichi Nakano, Atsushi Suzuki and Hisashi Yamamoto An Experimental Study of Evolutionary Solutions for Assignment Type Facility Layout Problem.
 - Huynh Trung Luong and Sakkarin Ngiuwichit JOB SHOP RESCHEDULING UNDER RUSH ORDER ARRIVALS
 - Mingchang Chih The effect of variance reduction techniques on particle dynamics in particle swarm optimization

- Koichi Nakade and Saki Ueda Simulation analysis of server allocation of customers considering walking time
- You-Jin Park, Sun Hur and Gilseung Ahn Real-Time Service Scheduling Considering Collaboration Potential in Cloud Manufacturing
- Xiaowen Zhao, Hisashi Yamamoto and Jing Sun An Optimal Assignment Model in Reset Limited-Cycle Multiple Production Periods Considered the Penalties of Due Date and Quality

C) Management Mathematics 3

Chair: Koichi Nakade

Decemembr 4 13:30-15:10

- Wei-Ya Wang and Kuo-Hao Chang Machine Selection Problem in Required Capacity Condition via Simulation Optimization
- Takuhiro Shimogama, Etsuko Kusakawa and Masaki Kiyomitsu Optimal Operation and Cost Sharing in a Dual-Channel Green Supply Chain considering Carbon Emissions under Government's Environmental Measures
- Haruki Suwa and Etsuko Kusakawa Evolutionary Game Theoretic Analysis for Carbon Tax, Subsidy and Penalty and Cap-and-Trade Policy
- Yuta Toki and Etsuko Kusakawa Optimal Operation in Closed-Loop Supply Chain with Product Life Cycle considering Time Efficiency of Profit
- Thanapoom Triamwechwootikrai, Kanchana Sethanan, Thitipong Jamrus, Kongkidakorn Worasan and Karn Moonsri Differential evolution for the periodic vehicle routing problem with delivery spaced constraints on maintenance services: A case study of the Thai sugar industry

(イ) 2020 年 3 月 6 日 (金) JIMA 春季大会 部門オーガナイズドセッション

- A) 炭素排出削減施策のもとでの小売-直販チャネルをもつグリーン・サプライチェーンの価格と炭素排出削減率の最適決定
楠川 恵津子 (大阪府立大学大学院), 清光 将生 (大阪府立大学)
- B) 組立ラインにおける異なる能力をもつ作業者の割り当てと製品投入順序づけ問題
中出 康一, 岡田 梨奈 (名古屋工業大学)

6) 人間・組織部門

(部門長：加藤 麻樹)

① 概要

当研究部門では、第 34 期では 2018 年度にひきつづきサービス部門と連携し、大学に所属するコアメンバーがコーディネーターとなり、ゲストを招聘して講演会、研究会を開催した。

② 研究部門活動報告

サービス部門と合同で以下の通り運営委員会を開催した。

日 時：2018 年 8 月 21 日 (火)

場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス

内 容：講演会報告，2020 年秋田大会 OS，講演会
計画，スケジュール，その他
他の議決についてはメールにより審議，決定した。

③ 研究成果（研究発表等）

サービス部門と合同で研究成果の報告を行った。

(ア) サービス・人間組織部門合同講演会

テーマ：「自動車の開発現場の課題について」

講演者：株式会社 SUBARU

技術研究所担当部長 兼

技術統括本部技術開発部担当部長

岩瀬 勉 氏

日 時：2019 年 6 月 18 日（火）

会 場：早稲田大学西早稲田キャンパス

(イ) 第 1 回サービス・人間組織部門合同講演会

テーマ：「世界初の装着型サイボーグ HAL-革
新性とその活躍分野とはー」

講演者：CYBERDYNE 株式会社取締役

営業本部長

安永 好宏 氏

日 時：2019 年 12 月 16 日（月）

会 場：東海大学 高輪キャンパス

(ウ) 2020 年度春 JIMA サービス部門との合同 OS

日 時：2020 年 3 月 5 日（木）

(エ) 第 2 回サービス・人間組織部門合同研究会

テーマ：サイバーダイン社訪問・見学

講演者：安永 好宏 様，サイバーダイン社

日 時：2020 年 3 月 17 日（火）

会 場：サイバーダイン・スタジオ

〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止〕

7) 応用データマイニング研究プロジェクト

（主査：石井 康夫）

① 概要

ビッグデータ解析等を中心に，データマイニングは，
新たな時代を迎えているといえる。様々なデータをテ
キストマイニングで分析するとともに，ベイジアン・
ネットワークでも分析し，比較検討を行うなど，最先
端の取り組みをしてゆきたく考えている。メンバーに
は，大量のアンケート調査データを集めている研究者
もいて，そういう意味では，1 年間の短期決戦には向
いているといえる。また，TWITTER を分析している
研究者もいる。これらの相乗効果も含め，有益な研究
活動を行ってゆく。

今年度は，1 回の研究会を実施した。

② 研究プロジェクト活動報告

(ア) 第 1 回研究会

開催日：2019 年 9 月 11 日（水）13:30～16:40

会場：富士市 吉原商店街振興組合 会議室

テーマ 1：「光分野における統計調査～実践的
事例の報告」

講演者：静岡県立大学経営情報学部教授

大久保 あかね

テーマ 2：「中心市街地活性化に向けた取り組
みとデータ活用」

講演者：富士山まちづくり株式会社企画営業マ
ネージャー 鈴木 大介

参加者：9 名

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 2019 年日本経営工学会秋季大会オーガナイズ
ドセッション

2019 年日本経営工学会秋季大会で 2 つのオーガナ
イズドセッションを設け，計 6 件発表

A) 2019 秋 JIMA 研究部門 OS 経営数理部門
応用データマイニング分析研究会 (1)

司会 石井 康夫（大和大学）（発表者：*）

1. Text Mining Analysis for the Depth Interview of
Visitors to Atami in Japan

○発表：Akane Okubo*, Yuki Higuchi, Daisuke
Suzuki

2. Questionnaire Investigation on the Needs at Fuji
City and its Sensitivity Analysis Utilizing
Bayesian Network from the View Point of
Service Engineering

○発表：Tsuyoshi Aburai*, Akane Okubo, Daisuke
Suzuki, Kazuhiro Takeyasu

3. Cluster Analysis and Correspondence Analysis
on a Questionnaire Investigation for Frozen Food

○発表：Koumei Suzuki*, Kazuhiro Takeyasu

応用データマイニング分析研究会 (2)

司会 樋口 友紀（摂南大学）

1. Estimation of the Order of ARIMA model by the
Utilization of Genetic Algorithm in the Case of
Banking Industry

○発表：Yuki Higuchi*

2. Intermittent Demand Forecasting on Udon
Noodles Utilizing a Day of the Week Index under
the Comparison of Plural Methods

○発表：Kazuhiro Takeyasu*, Daisuke Takeyasu,
Hiromasa Takeyasu

3. 河津桜祭り来訪者調査に関する数量化理論
第 II 類による実証的分析

○発表：石井 康夫*, 大久保 あかね，鈴木 大介，
竹安 数博

(イ) The 49th International Conference on Computers &
Industrial Engineering

Beijing, China, October 18-21, 2019

ICC&IE 2019 でオーガナイズドセッションを設け，
10 月 20 日に 3 件発表（* 印）

A) Special session: Marketing Analysis

1. Kazuhiro Takeyasu*, Hiromasa Takeyasu

Intermittent Demand Forecasting on Udon
Noodles Utilizing a Day of the Week Index

2. Koumei Suzuki*, Kazuhiro Takeyasu

Hypothesis Testing on a Questionnaire
Investigation for Frozen Food at Shizuoka

3. Daisuke Suzuki*, Akane Okubo, Tsuyosi Aburai,
Kazuhiro Takeyasu

Bayesian Network Analysis for the Questionnaire
Investigation on the Impression at Fuji City

(ウ) 2020 年日本経営工学会秋季大会 オーガナイズ
ドセッション

2020 年日本経営工学会秋季大会でオーガナイズ

ドセッションを持つ予定
(エ) EAWIE 2020 オーガナイズドセッション
East Asia Workshop on Industrial Engineering 2020
(EAWIE 2020) にてオーガナイズドセッションを持つ予定

8) グローバル時代の MOT 研究会-2

(主査：西村 泰一)

① 概要

グローバル時代の MOT 研究会の主旨はグローバル時のあるべき MOT を追及する事である。

目的は、2 つあり第 1 に産業界から見て魅力ある研究会を目指すこと、第 2 に研究会の内容が産業界からの参加者によって社会貢献につなげることである。

② 研究プロジェクト活動報告

(ア) 第 5 回

開催日：2019 年 5 月 11 日 (土) 13:30～16:30
会 場：東京都市大学 渋谷サテライトクラス
テーマ：「データ分析はイノベーションを加速できる」

講 師：データ・ケーキベカ (株)
唐澤 英安 氏

参加者：31 名

(イ) 第 6 回

開催日：2019 年 7 月 6 日 (土) 13:30～16:30
会 場：新宿工学院大学 21 階第 5 会議室
テーマ：「イノベーションの仕組み再構築のすすめ」

講 師：(株) エクサ
江口 隆夫 氏

参加者：29 名

(ウ) 第 7 回

開催日：2019 年 10 月 5 日 (土) 13:30～16:30
会 場：新宿工学院大学 21 階第 5 会議室
テーマ：「ものづくり生産現場の社会生産性」

講 師：玉川大学 名誉教授

野渡 正博 氏

参加者：20 名

(エ) 第 8 回

開催日：2019 年 11 月 2 日 (土) 13:30～16:30
会 場：新宿工学院大学 21 階第 5 会議室
テーマ：「新しいモビリティサービスの活性化に向けて：日本版 MaaS の在り方」

講 師：経済産業省 製造産業局 自動車課
増田 陽洋 氏

参加者：19 名

(オ) 第 9 回

開催日：2020 年 2 月 15 日 (土) 13:30～16:30
会 場：東京都市大学 渋谷サテライトクラス
テーマ：「技術士と技術経営：日本の未来を考える」

講 師：アプライドマテリアルズジャパン (株)
田中 慶一 氏

参加者：28 名

③ 研究成果 (研究発表等)

第 5 回については、経営システム誌 29 巻 1 号で

研究プロジェクト報告を行った。第 6 回～第 9 回については 2019 年秋季大会、2020 年春季大会での発表が出来なかったため、別途全 9 回分の研究プロジェクト報告書を作成した。

また、毎回の開催概要については学会のメールマガジン、当研究会のウェブサイトにおいて報告している (下記サイト参照)。

<https://ft19972012tn.wixsite.com/jima-mot>

9) 集合知メカニズムとその社会実装

(主査：水山 元)

① 概要

「集合知メカニズム」とは、複数人に分散している知識を集約して集合知を形成する仕組みを捉えるためのフレームワークである。これは、直接アクセスすることが困難な、人々の頭の中にある知識をうまく引き出すための、知識提供者とシステムとの間のインタラクション、そのインタラクションを適切に機能させるためのインタフェースやインセンティブなどによって規定される。本研究会は、この集合知メカニズムについての理論的な研究と、それを実際に社会で活用していくための実践的な研究を協働的に進めていくための場としたい。

② 研究プロジェクト活動報告

(ア) 第 1 回

日時：2019 年 6 月 1 日 (土) 17:00～21:00
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 11 号館 709 室
(東京都新宿区戸塚町 1 丁目 104)

参加者：6 名

内容：集合知メカニズムの定式化について

(イ) 第 2 回

日時：2019 年 6 月 29 日 (土) 17:00～20:30
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 11 号館 705 室
(東京都新宿区戸塚町 1 丁目 104)

参加者：8 名

内容：集合知メカニズムの定式化に関する各メンバーからの発表とディスカッション

(ウ) 第 3 回

日時：2019 年 7 月 25 日 (木) 17:30～21:30
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 3 号館 710 室
(東京都新宿区戸塚町 1 丁目 104)

参加者：7 名

内容：集合知メカニズムの定式化に関する各メンバーからの発表とディスカッション

(エ) 第 4 回

日時：2019 年 8 月 23 日 (金) 18:00～21:00
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 11 号館 702 室
(東京都新宿区戸塚町 1 丁目 104)

参加者：6 名

内容：集合知メカニズムの定式化に関する各メンバーからの発表とディスカッション、および SICE SSI 2019 での SS について

(オ) 第 5 回

日時：2019 年 10 月 25 日 (金) 18:30～21:30
会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 11 号館 508 室
(東京都新宿区戸塚町 1 丁目 104)

参加者：8名

内容：集合知メカニズムの応用に関する各メンバーからの発表とディスカッション

(カ) 第6回

日時：2019年12月6日(金) 19:00～22:00

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館 705室
(東京都新宿区戸塚町1丁目104)

参加者：5名

内容：集合知メカニズムの応用に関する各メンバーからの発表とディスカッション、および春季大会でのOSと今後の活動計画について

(キ) 第7回

日時：2020年2月12日(水) 19:30～22:30

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 22号館 502室
(東京都新宿区戸塚町1丁目104)

参加者：6名

内容：集合知メカニズムの応用に関する各メンバーからの発表とディスカッション

③ 研究成果(研究発表等)

SICE SSI 2019でのスペシャルセッション

JIMA 春季大会でのオーガナイズドセッション

(ア) 杉之内 将大, 山田 樹貴, 松本 俊之, 肥田 拓哉, 水山 元(青山学院大学)

対話型進化計算によるオフィスレイアウト設計法に関する研究

(イ) 藤井 信忠, 洪 性明, 國領 大介, 貝原 俊也, 玉置 久, 鳩野 逸生(神戸大学)

生産設備ネットワークにおけるアントエージェントを用いた異常発見
—複数設備における検証—

(ウ) 杉之内 将大, 高橋 優那, 栗原 陽介, 水山 元(青山学院大学)

演劇における配役決定とチケット配分の同時決定メカニズム

(3) 産学連携研究交流会：企画・行事委員会

1) 目的：

経済社会のグローバル化が急速に進む中、生産企業は新たな時代にいかに競争力を高めていくか、多くの課題の中で模索し、一方で経営工学は、企業の経営課題を解決するための工学的アプローチとして、その理論を深耕し、企業での適用事例を蓄積してきたが、時代の変化が加速する中、その役割を周知すると共に、産業界のニーズに対応して理論体系を高度化していく必要がある。本研究交流会では、産業界と学界が日本のモノづくり活性化のために一体となって交流、議論、研究し、経営工学・IEの見方・考え方で日本のモノづくりに貢献することを目的にしている。

2) 開催内容：

本研究交流会は5つのテーマに分かれ、その各分科会では、単なる見学に留まらず、大学教員による講義・企業事例の分析、見学企業での分析と検証という3回をセットとして開催した。

本年度は第4期分科会1～5を企画、結果として分科会1～4を開催した(分科会5は企画内容の見直しのた

め中止とした)。

① 第4期 分科会1：改善を推進する人材の育成(IoT活用編)参加者：9名

(ア) 第1回

開催日：2019年8月2日(金) 10:00-17:30

場所：青山学院 Hicon

企業改善事例紹介&実習：IoTとプラットフォームの基本操作の実習とグループディスカッション

指導講師：青山学院 Hicon 小野 好之氏

(イ) 第2回

開催日：2019年8月20日(火)

場所：静岡県掛川市

企業訪問・見学：NECプラットフォームズ(株)掛川事業所

「IoTを活用した改善事例」

(ウ) 第3回

開催日：2019年8月27日(火) 13:00-17:30

場所：青山学院 Hicon

グループワーク：自らの生産現場をデジタル化した未来像を描く

指導講師：青山学院大学教授 玉木 欽也氏

② 第4期 分科会2：IE視点に立った業務の仕組みづくりと改善 参加者：11名

(ア) 第1回

開催日：2019年7月30日(火) 13:00-17:30

場所：生産性本部ビル

企業改善事例紹介：良品計画(株)上原 俊樹氏

「仕組みに基づく業務効率向上(事例紹介)」
大学研究事例紹介：東京都市大学 准教授

大久保 寛基氏

「業務仕組化に基づく改善推進(事例解釈と演習)」

(イ) 第2回

開催日：2019年8月29日(木) 13:00-16:45

場所：大阪府堺市

企業訪問・見学：ダイキン工業(株)

堺製作所 臨海工場

「臨海新工場のIoTを活用したモノづくり」

(ウ) 第3回

開催日：2019年9月9日(月) 13:00～17:30

場所：タワーホール船堀

企業改善事例紹介：ウイングアーク1st(株)

荏原 光誠氏, 大畠 幸男氏

「データ活用による働き方改革(Data Empowerment)」

大学研究事例紹介：玉川大学 准教授

木内 正光氏

「ITとカイゼンの関係」

③ 第4期 分科会3：企業体質強化に向けた視点

参加者：27名

(ア) 第1回

開催日：2019年9月30日(月) 13:00-17:30

場所：慶應義塾大学

企業改善事例紹介：鍋屋バイテック会社

「鍋屋バイテック会社の成長要因を考える」

大学研究事例紹介：慶應義塾大学 教授

河野 宏和 氏

「経営体質強化に向けての視点—IE と改善を
ベースにした現場力強化の意義」

大学研究事例紹介：東京工科大学 山口 淳氏

「継続的改善活動を支えるマネジメント要因」

(イ) 第 2 回

開催日：2019 年 10 月 23 日（水）13:00-17:30

場 所：慶應義塾大学

企業改善事例紹介：オグラ金属（株）

「叱る 5S から褒めて伸ばす 5S へ」

大学研究事例紹介：慶應義塾大学 教授

坂爪 裕 氏

「3S の徹底による発見型改善のすすめ」

(ウ) 第 3 回

開催日：2019 年 11 月 15 日（金）13:00-17:30

場 所：岐阜県関市

企業訪問・見学：鍋屋バイテック会社 関工園&

美濃ファウンドリ

「工場現場で経営力強化の原点を考える」

④ 第 4 期 分科会 4:IE を用いた自動化ラインの設計と
維持 参加者：30 名

(ア) 第 1 回

開催日：2019 年 12 月 20 日（金）13:00-17:30

場 所：成蹊大学

大学研究事例紹介：成蹊大学 教授

篠田 心治 氏

「自動化ラインの現状と自動化ラインの設計
方法」

企業改善事例紹介：マックス（株）長沼陽介氏

「人とロボットが共存する自動化ラインの設
計」

(イ) 第 2 回

開催日：2020 年 1 月 24 日（金）13:00-17:30

場 所：埼玉県入間市

企業訪問・見学：（株）安川電機 入間事業所

「ロボットを活用した次世代生産設備開発に
おける IE 的アプローチ」

(ウ) 第 3 回

開催日：2020 年 3 月 3 日（火）13:00-17:30

場 所：栃木県那須塩原市

企業訪問・見学：（株）ブリヂストン栃木工場

「自動化設備の標準化」

1) 第 19 回 APIEMS の開催の HP 更新

2) 第 19 回 APIEMS2018 理事会報告の HP 掲載

3) 第 20 回 APIEMS2019（金沢）開催予定の HP 掲載

4) 第 20 回 APIEMS2019（金沢）組織委員会と JIMA と
の窓口業務

(4) 経営工学関連学会協議会（FMES）及び日本技術者認
定機構（JABEE）への協力

FMES には、代表者として学会理事である大久保寛
基（東京都市大学）、中島健一（早稲田大学）を、
FMES/JABEE 委員に渡邊一衛（成蹊大学）、中島健
一（早稲田大学）を、FMES シンポジウム委員に伊呂
原隆（上智大学）、翁嘉華（早稲田大学）にそれぞ
れ参画頂いた（敬称略）。

(5) 横幹連合、日本工学教育協会、経営関連学会協議会
との連携支援

上記 3 団体に対し、JIMA の会員継続手続きを行い
各団体の最新情報を専用ホームページで提供した。

また、日本工学教育協会連合講演会の実行委員に
細田順子（日立製作所）、経営関連学会協議会理事
に開沼泰隆（首都大学東京）、副理事長補佐降旗徹
馬（高千穂大学）に参画頂いた（敬称略）。

(6) 日本 IE 協会、日本技術士会との 3 団体連携事業への
協力、ConCom2019 協賛に伴う協力支援を行った。

[VI] その他前条の目的を達成するに必要な事業

（定款第 4 条第 6 号）

特になし

[V] 内外の関連機関との連携及び交流（定款第 4 条第 5 号）

活動報告

(1) 国際会議及び協賛学会情報の提供

国内外での開催会議 36 件の協賛承認を行い、「共
催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメル
マガに掲載した。なお、36 件中 FMES 協賛覚書準拠
の案件が 12 件、国際会議が 3 件であった。

(2) IFPR（ICPR）および IFPR-APR との連携

1) 第 22 回 IFPR-APR2018（Hong Kong, China）報告の
HP 掲載

2) 第 25 回 ICPR（Chicago, USA）開催予定の HP 掲載

(3) APIEMS との連携

1. 1. 2 処務の概要

〔Ⅰ〕 役員等に関する事項

2020年3月末現在

職 名	常非別	氏 名	就任（重任）年月日	担当職務	報酬	現 職	備考
会 長	非常勤	松川 弘明	2019年6月1日	業務の総括	無	慶應義塾大学	
副会長	〃	藤野 直明	〃	産官学連携・ 人材育成	〃	株式会社 野村総 合研究所	
副会長	〃	中島 健一	〃	70周年記念行事・ 公益事業推進	〃	早稲田大学	
理 事	〃	葛山 康典	〃	財務	〃	早稲田大学	
理 事	〃	八木 英一郎	〃	会員・表彰	〃	東海大学	
理 事	〃	森川 克己	〃	支部	〃	広島大学	
理 事	〃	皆川 健多郎	〃	企画・行事	〃	大阪工業大学	
理 事	〃	小島 貢利	〃	研究	〃	名古屋工業大学	
理 事	〃	志田 敬介	〃	庶務	〃	慶應義塾大学	
理 事	〃	辛島 光彦	〃	大会	〃	東海大学	
理 事	〃	西岡 久充	〃	経営システム誌・ 庶務	〃	龍谷大学	
理 事	〃	開沼 泰隆	〃	論文誌	〃	首都大学東京	
理 事	〃	伊呂原 隆	〃	国際・渉外	〃	上智大学	
監 事	〃	大久保 寛基	〃	監事	〃	東京都市大学	
監 事	〃	西口 宏美	〃	監事	〃	東海大学	

〔Ⅱ〕 職員に関する事項

2020年3月末現在

なし

2019 年度社員（会員）異動状況報告書
(2020 年 3 月 31 日現在)

2020 年 3 月末社員数 33
2019 年 3 月末社員数 38
増減数 5

支部	正会員	正会員 (賛助代表)	学生会員	賛助会員	名誉会員	支部計
東北・北海道	31	0	7	0	0	38
関東	570	4	112	8	18	712
中部	96	1	13	3	4	117
北陸	33	1	1	1	0	36
関西	143	0	3	3	4	153
中国四国	64	1	9	1	2	77
九州	37	0	0	0	0	37
海外	2					2
合計	976	7	145	16社/17口	28	1,172
前年度末	1,029	7	178	16社/17口	27	1,257
増減	-53	0	-33	0社/0口	1	-85

〔Ⅲ〕会議等に関する事項

（１）理事会

１）第 35 期第 1 回理事会

開催日：2019 年 6 月 1 日（土）15:39-16:53

場 所：東京都市大学渋谷サテライトクラス

議決事項：

- ① 代表理事選出の件
 - ② 理事の会務担当の件
 - ③ 常設委員会委員の委嘱の件
 - ④ 研究部門長の委嘱の件
- 以上 4 件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 特別委員会設置について
 - ② 第 35 期理事会会議日程について
 - ③ 理事会議案書作成について
 - ④ 庶務業務の効率化について
- 以上 4 件について協議した。報告事項は 1 件である。

２）第 35 期第 2 回理事会

開催日：2019 年 9 月 7 日（土）12:00-15:41

場 所：東京都市大学渋谷サテライトクラス

議決事項：

- ① 入会の件
 - ② 人材育成委員会委員委嘱の件
- 以上 2 件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 事務局と学会運営の効率化について
 - ② 特別委員会設置について
 - ③ 公益事業推進特別委員会の設置について
 - ④ 70 周年記念大会の開催について
 - ⑤ 70 周年記念事業計画について
 - ⑥ EAWIE について
 - ⑦ 理事会でのグループウェア導入について
 - ⑧ 今後の理事会日程について
 - ⑨ 経営システム誌編集規則、編集委員会運営催促の改正について
 - ⑩ 技術士からの「技術士を目指そう」説明会開催への協力依頼について
 - ⑪ 台風 15 号の関東上陸に伴う対応案について
- 以上 11 件について協議した。報告事項は 4 件である。

３）第 35 期第 3 回理事会

開催日：2019 年 12 月 7 日（土）14:00-16:17

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14 号館 10 階 1060

議決事項：

- ① 入会の件
 - ② 2019 年秋季大会 Best Presentation Award の件
 - ③ 学会事務局の契約見直しの件
 - ④ 人材育成委員会委員の追加委嘱の件
 - ⑤ 産官学連携推進特別委員会委員の追加委嘱の件
- 以上 5 件について全会一致で承認した。なお、③の詳細については継続して審議することになった。

協議事項：

- ① 70 周年記念日本経営工学会特別功労賞について
- ② 70 周年記念大会の開催について
- ③ 2021 年度以降の秋季大会発表大会の運営について

て

- ④ 2021 年度春季大会について

- ⑤ 2020 年度定時総会の開催候補日について

以上 5 件について協議した。報告事項は 8 件である。

４）第 35 期第 4 回理事会

開催日：2020 年 1 月 11 日（日）13:00-17:17

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 14 号館 10 階 1060

議決事項：

- ① 入会の件
- ⑥ 論文誌執筆細則、チェックシート変更の件
- ③ 日本学術会議会員・連携会員の候補者に関する情報提供の件

以上 3 件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 70 周年記念事業：日本経営工学会特別功労賞（支部推薦）について
- ⑦ 公益推進事業に関わるビジネスモデル構築について
- ⑧ 2020 年度事業計画案について
- ⑨ 今後の理事会日程について
- ⑩ 事業／収支決算報告のみなし決議について
- ⑪ 春季・秋季大会における論文発表の件
- ⑫ 日本経営工学会論文誌 70 周年記念特集号の件
- ⑬ 産学連携研究交流会の覚書について
- ⑭ 産学連携研究交流会第 1 分科会の青山学院 HIC への支払いについて
- ⑮ 2020 年度予算について
- ⑯ 2020 年春季大会基調講演講演謝金について
- ⑰ 2020 年春季大会東北・北海道支部研究大会 OS の予稿集製本・配布について
- ⑱ EAWIE について
- ⑲ 「経営システム」誌のオープンアクセス化について

以上 14 件について協議した。報告事項は 5 件である。

（２）理事会みなし決議

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条「理事会の決議の省略」に基づき、以下のみなし決議を行なった。

１）第 34 期第 12 回理事会議事録確認の件

開催日：2019 年 6 月 8 日（土）～6 月 13 日（木）

提案に対し、2019 年 6 月 13 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

２）入会承認の件

開催日：2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 6 日（土）

提案に対し、2019 年 7 月 6 日、議決に加わることでできる理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないことの意味表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされ

た。

3) 35 期支部長承認の件

開催日：2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 6 日（土）

提案に対し、2019 年 7 月 6 日、議決に加わることで、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

4) 財務委員会委員の追加委嘱の件

開催日：2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 6 日（土）

提案に対し、2019 年 7 月 6 日、議決に加わることで、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

5) 論文誌編集委員会委員の追加委嘱の件

開催日：2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 6 日（土）

提案に対し、2019 年 7 月 6 日、議決に加わることで、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

6) 大会委員会委員の追加委嘱の件

開催日：2019 年 8 月 5 日（月）～8 月 9 日（金）

提案に対し、2019 年 8 月 9 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

7) 論文誌の発行部数を 1400 部から 1300 部に減らす決定について

開催日：2019 年 10 月 7 日（月）～10 月 11 日（金）

提案に対し、2019 年 10 月 11 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

8) 著者校正段階での論文の改訂の承認について

開催日：2019 年 10 月 7 日（月）～10 月 11 日（金）

提案に対し、2019 年 10 月 11 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

9) 2019 年度表彰案の件

開催日：2020 年 2 月 7 日（金）

提案に対し、2020 年 2 月 7 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

10) 入会・会員権利喪失承認の件

開催日：2020 年 3 月 2 日（月）～3 月 6 日（金）

提案に対し、2020 年 3 月 6 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

11) 2020 年度予算案の件

開催日：2020 年 3 月 2 日（金）～3 月 6 日（金）

提案に対し、2020 年 3 月 6 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

12) 第 4 回産学連携研究交流会・分科会 4・第 3 例会の開催の件

開催日：2020 年 3 月 2 日（金）～3 月 6 日（金）

提案に対し、2020 年 3 月 6 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと、意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 総会

2019 年度定時総会

開催日：2019 年 6 月 1 日（土）14:00-14:53

場 所：東京都市大学渋谷サテライトクラス

報告事項：

- ① 2018 年度事業報告、学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告
- ② 監査報告
- ③ 2019 年度事業計画、収支予算報告
- ④ 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

審議事項：

- 第一号議案 2018 年度事業報告及び収支決算報告の件
- 第二号議案 規則改定の件
- 第三号議案 名誉会員推戴の件
- 第四号議案 新役員選任の件

(4) 各種委員会

1) 庶務委員会

理 事：志田 敬介、西岡 久充

委員長：中嶋 良介

委 員：中嶋 良介、肥田 拓哉、北條 仁志、山崎 友彰

① 活動報告

- (ア) 第 35 期理事会の運営や資料作成、議事録作成などを行った。

- (イ) メールマガジン（毎月1日、15日発行）の掲載依頼内容及び事務局が作成した記事内容を確認するとともに、事務局への配信依頼を行った。
- (ウ) 各種委員会や研究部門・研究プロジェクト、あるいは公募情報などのホームページ掲載依頼を集約し、事務局へ更新を依頼するとともに、依頼者への更新結果の連絡なども行った。
- (エ) 業務委託内容を精査し、事務局に依存しない学会運営を検討するとともに、無駄の削減を行い、次年度の国際文献社との契約や予算案に反映させた。
- (オ) 事業計画書及び事業報告書の取りまとめや確認を行った。

② 委員会の開催

(ア) 第35期第1回委員会

開催日：2019年6月3日（月）～6月10日（月）

場 所：メール審議

議 題：

A) 庶務委員長の互選について

B) 庶務委員の役割分担について

出席者：6名

2) 研究委員会

理 事：小島 貢利

委員長：蓮池 隆

委 員：新目 真紀，三原 康司，加藤 麻樹，

関 庸一，孫 晶，北條 仁志，佐藤 公俊

① 活動報告

2019年9月の秋季大会において、研究部門および研究プロジェクトがOS (Organized Session) を開催した。また、2020年3月の春季大会において、研究部門および研究プロジェクトがOSを発表した。

② 委員会の開催

(ア) 第1回

開催日：2019年9月9日（土）12:00-12:40

場 所：タワーホール船堀 C会場

議 題：

A) 委員紹介および全体方針

B) 関連業務の見積もりと改善に関して

C) その他

出席者：小島，蓮池，新目，関，孫，北條（6名）

3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

理 事：開沼 泰隆

委員長：降旗 徹馬

副委員長：秋葉 知昭，椎名 孝之

委 員：阿部 圭司，翁 嘉華，片山 直登，倉田 久，
鈴木 定省，高野倉 雅人，滝 聖子，
中出 康一，中山 景央，水山 元，Yacob Khojasteh

① 日本経営工学会論文誌（Journal of Japan Industrial Management Association）和文号，Vol.70, No.1～No.4, 2E, 4E を発行した。

② 第35期編集委員会の体制として、2019年度の編集委員会を以下のように開催し、論文の査読状況を確認

するとともに、編集方針等の各議題について協議した。

(ア) 第1回 委員会

開催日：2019年8月7日（水）18:30-20:00

場 所：学会誌刊行センター会議室

議 題：

A) 委員自己紹介

B) 査読状況の確認

C) エリアエディタについて

D) J-Stage へのオンライン投稿について

E) 印刷部数について

F) その他（意見交換）

(イ) 第2回 委員会

開催日：2019年9月10日（火）12:10～13:00

場 所：タワーホール船堀会議室

議 題：

A) エリアエディタについて

B) J-Stage 運用開始の Web での案内について

C) 学会 Web ページの整理・更新について

D) 論文チェックシートについて

E) 若手研究者向け論文発表について

F) J-Stage Editrial Manager の運用について

G) その他

(ウ) 第3回 委員会

開催日：2019年10月25日（金）18:30-20:00

場 所：学会誌刊行センター会議室

議 題：

A) 査読状況の確認

B) 細則の見直しについて

C) 論文発表について

D) その他

(エ) 第4回 委員会

開催日：2019年12月13日（金）18:00-19:30

場 所：学会誌刊行センター会議室

議 題：

A) 査読状況の確認

B) 細則の見直しについて

C) 特集号の企画について

D) リマインダの設定について

E) その他

(オ) 第5回 委員会

開催日：2020年2月21日（金）18:00-19:30

場 所：学会誌刊行センター会議室

議 題：

A) 査読状況の確認

B) 細則の見直しに

C) 特集号の企画について

D) 論文 LaTeX スタイルシートの更新について

E) 論文発表について

F) その他

③ 2019年7月1日（月）18:30より、学会誌刊行センター会議室にて、第34期から第35期へ8月から引継ぐための会合を、新旧の理事・正副委員長にて行った。

4) 企画行事委員会

理 事：皆川 健多郎

委員長：外館 晃

委 員：斎藤 文，高田 淳，市来 寄 治

産学連携研究交流会の企画・運営が主な活動である。

なお、産学連携研究交流会は日本IE協会（JIIE）共催事業であり、企画・運営にも参画頂いている。

① 第4期産学連携研究交流会の開催・運営

（ア）分科会1（2019年8月）

（イ）分科会2（2019年7～9月）

（ウ）分科会3（2019年9～11月）

（エ）分科会4（2019年12月,2020年1,3月）

（第3例会を翌年度開催へ延期）

（オ）分科会5（2019年12月,2020年1月）（中止）

② 会合の開催

産学連携研究交流会企画・運営協議がメインの議題である。担当理事，委員長が委員及び関連メンバーとメールで事前に意見収集/調整，それを踏まえて委員がJIIEと会合を実施した。

（ア）第1回会合

開催日：2019年7月20日（土）10:00-12:00

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：第4期産学連携研究交流会，募集方法の検討，第5期産学連携研究交流会の企画，その他

出席者：企画・行事委員 5 名，JIIE2 名

（イ）第2回会合（メール審議）

開催日：2019年8月23日（金）

議 題：分科会1，2の開催状況，分科会3以降の準備状況，第5期産学連携研究交流会の企画

（ウ）第3回会合（臨時）

開催日：2019年8月29日（木）11:00-12:00

場 所：ダイキン工業(株) 堺製作所 臨海工場近隣

議 題：第5期産学連携研究交流会の進め方について（上記メール審議結果踏まえて）

出席者：企画・行事委員 2 名，JIIE3 名

（エ）第4回会合

開催日：2019年9月17日（火）17:30-19:30

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：分科会1，2の状況報告，分科会3～5の準備状況，第5期産学連携研究交流会の企画，委員会の開催調整

出席者：企画・行事委員 4 名，JIIE2 名

（オ）第5回会合（臨時）

開催日：2019年10月4日（金）16:00-18:20

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：分科会4，5の開催調整，次回委員会日程調整

出席者：企画・行事委員 1 名，JIIE3 名

（カ）第6回会合

開催日：2019年10月18日（金）17:45-19:00

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：第4期事業の進捗状況，事業への協力体制と担当者への業務の平準化，次年度事業の企画，

出席者：企画・行事委員 4 名，JIIE2 名

（キ）第7回会合

開催日：2019年11月19日（火）18:00-19:30

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：分科会5の開催について，第5期産学連携交流会の開催について

出席者：企画・行事委員 4 名，JIIE3 名

（ク）第8回会合

開催日：2019年12月26日（金）17:30-19:00

場 所：日本生産性本部（永田町）

議 題：分科会1～4の総括，産学連携研究交流会の実施方法の検討，新企画に関する検討

出席者：企画・行事委員 5 名，JIIE3 名

（ケ）第9回会合（メール審議）

開催日：2020年1月20日（月）

議 題：理事会での協議事項の報告（日本IE協会での産学連携研究交流会の実施，産学連携研究交流会の覚書について）

（コ）第10回会合（メール審議）

開催日：2020年2月20日（木）

議 題：分科会4・第3例会の実施について

（サ）第11回会合（メール審議）

開催日：2020年3月7日（土）

議 題：分科会4・第3例会の取り扱いについて

5) 人材育成委員会

理 事：藤野 直明

委員長：藤野 直明

委 員：笈 宗徳，玉木 欽也，皆川 健多郎

① 「技術士を目指そう」説明会 東京

経営工学3団体連携による説明会を開催

開催日：2019年12月14日（土）13:30-17:00

場 所：青山学院大学

参加者：39 名

内 容：

（ア）技術士制度について（技術士会経営工学部会）

（イ）挨拶（藤野）「技術士への期待」

（ウ）技術士資格取得のメリット

（エ）学会 CPD と資格挑戦への支援（笈先生）

（オ）試験内容と受験準備のポイント（技術士会）

（カ）専門グループ別相談・アドバイス

② 日本技術士会経営工学部会講演会

経営工学3団体連携による講演会を開催

開催日：2020年2月22日（土）13:00-18:50

場 所：一般財団法人機械振興協会機械振興会館

B3 階研修1会議室

参加者：日本経営工学会，日本 IE 協会，日本技術士会各会員，他（約 60 名）

（ア）テーマ：『経営工学を活用してさらなる飛躍』～経営工学の活用を目指して～

（イ）趣 旨：

近年，経営工学の活動範囲は製造業にとどまらず，第一次産業である農業，第三次産業であるサービス業などへ適用されつつある。欧米においてもその適用範囲は広がり，医療現場，娯楽施設，コールセンターでの活用も見られるようになった。

ここで、「経営工学」の在り方について振り返りを含めて、経営工学を活用することで、製造業のみならず第一次産業、第二次産業そして近年「産業の六次化」が言われている中、産業全体のさらなる飛躍について考えてみたいと考える。

- (ウ) 登壇者：
日本経営工学会 副会長 藤野
日本 IE 協会
日本技術士会 経営工学部会

6) 会員委員会

理 事：八木 英一郎
委員長：笥 宗徳
委 員：相浦 宣徳，大森 峻一

① 委員会の開催

(ア) 第 1 回会員委員会
開催日：2019 年 9 月 10 日 (火) 12:00-13:00
場 所：タワーホール船堀 会議室
出席者：八木，笥，相浦の 3 名
議 題：

- A) 34 期からの引継に関して
B) その他

(ウ) 第 2 回会員委員会
開催日：2020 年 3 月 16 日 (月)
場 所：メール審議
議 題：

- A) 経営システム誌編集委員会への会員情報提供について

② 定期の委員会審議/情報交換

開催日：随時
場 所：メールによる審議/情報交換
活動内容：

- A) 入退会申請の確認，事務局への問い合わせ
B) 名誉会員候補者の確認，理事会への審議提案
C) 会費未納会員に関する確認，督促の指示

③ 会員情報原本管理

- A) セキュリティ上の管理
B) 会員情報の整合性管理

7) 財務委員会

理 事：葛山 康典
委員長：葛山 康典
委 員：阿部 圭司，平井 裕久

① 第 1 回委員会

開催日：2019 年 7 月 25 日 (木)
場 所：メール審議
議 題：

- (ア) 第 1 四半期決算

② 第 2 回委員会

開催日：2019 年 10 月 26 日 (土)
場 所：メール審議
議 題：

- (ア) 第 2 四半期決算

③ 第 3 回委員会

開催日：2019 年 12 月 23 日 (月)

場 所：メール審議

議 題：

- (ア) 2020 年度予算案の検討

④ 第 4 回委員会

開催日：2020 年 1 月 22 日 (水)

場 所：メール審議

議 題：

- (ア) 第 3 四半期決算

⑤ 第 5 回委員会

開催日：2020 年 2 月 27 日 (木)

場 所：メール審議

議 題：

- (ア) 2020 年度予算案

8) 表彰委員会

理 事：八木 英一郎

委員長：石垣 綾

委 員：竹本 康彦，中出 康一，開沼 泰隆，
西岡 久充，後藤 正幸，森川 克己，笥 宗徳

① 委員会開催報告

- (ア) 第 1 回委員会

開催日：2019 年 9 月 10 日 (火)

場 所：タワーホール船堀

議 題：

- A) 2019 年度の表彰日程について
B) 秋季大会の BPA 受賞候補者について
C) 70 周年記念行事における表彰に関して
出席者：8 名

- (イ) 第 2 回委員会

開催日：2019 年 1 月 14 日 (火)

場 所：メール審議

議 題：

- A) 学会賞 (学術・功労)，論文賞・論文奨励賞，
経営システム賞，実践賞の審査

9) 大会委員会

理 事：辛島 光彦

委員長：小村 和彦

委 員：楠川 恵津子，加藤 麻樹，木内 正光，
小林 稔，田畑 智章，長沢 敬祐，
八木 英一郎

① 研究発表大会

- (ア) 2019 年 秋季大会

日時：2019 年 9 月 9 日 (月) ～10 日 (火)

場所：タワーホール船堀

IE 協会と共催

- (イ) 2020 年 春季大会

日時：2020 年 3 月 5 日 (木) ～6 日 (金) を予定
[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

場所：秋田県立大学本荘キャンパス

大会組織委員長 嶋崎 真仁 先生

テーマ：「教育と経営工学」

- ② 委員会開催報告

- (ア) 第 1 回

開催日：2019 年 6 月 28 日 (金) 18:00-19:30

場 所：東海大学高輪キャンパス

議 題：

- A) 委員長選出：小村 和彦
- B) 大会委員会業務引継ぎ
- C) 大会委員会年間計画の説明
- D) 業務効率化と支出削減についての検討
- E) その他

出席者：6名

(イ) 第2回

開催日：2019年7月26日（金）

場 所：東海大学高輪キャンパス

議 題：

- A) プログラム編成について
- B) 司会の選定について

出席者：3名

(ウ) 第3回

開催日：2020年1月30日（木）

場 所：東海大学高輪キャンパス

議 題：

- A) プログラム編成について

出席者：4名

(エ) その他

メール会議にて開催

- A) 2019年秋季大会台風対応について
- B) 2020年秋季大会について
- C) 2020年事業計画と予算案について
- D) 2020年春季大会の中止について
- E) 2020年春季大会の代替研究発表会の中止について

1.0) 国際・渉外委員会

理 事：伊呂原 隆

委員長：翁 嘉華

副委員長：降旗 徹馬，赤木 宏匡

委 員：秋葉 知昭，大森 峻一，呉 思迪，孫 晶，
中山 景央，長沢 敬祐，細田 順子，山下 遥

① 委員会

(ア) 第35期第1回 委員会

開催日：2019年9月9日（月）12:00-12:40

場 所：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

議 題：

- A) 2019年の運営体制
- B) その他

出席者：9名

(イ) 第35期第2回 委員会

開催日：2019年11月26日（月）18:00-19:30

場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議 題：

- A) 2019年度前半までの総括
- B) 2019年度後半の運営について
- C) 2020年度予算案について
- D) その他

出席者：9名

(ウ) 第34期第3回 委員会

開催日：2020年3月5日（金）12:00-13:00

場 所：秋田県立大学（秋田県秋田市）

議 題：

- A) 2019年度後半の総括
- B) 外部団体との連携の見直し

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

② 2019年度の主な活動結果

(ア) APIEMS との連携

- A) 第20回 APIEMS の開催の HP 更新
- B) 第20回 APIEMS2018 理事会報告の HP 掲載
- C) 第20回 APIEMS2019（金沢）組織委員会と JIMA との窓口業務

(イ) IFPR（ICPR）および IFPR-APR との連携

- A) 第25回 ICPR（Chicago, USA）開催の HP 掲載
- B) IFPR-APR2019（Chicago, USA）報告の HP 掲載

③ 国際会議の情報提供

JIMA 会員の関心のあると思われる研究領域の国際会議の開催情報を「国際会議のご案内」のページに平均20件程度掲載した。このページは毎月の更新、見直しをしている。また、メルマガには隔号で直近3カ月に締め切りを迎える会議を掲載している。

④ 横幹連合，日本工学教育協会，経営関連学会協議会との連携支援

上記3団体に対し，JIMA の会員継続手続きを行った。また，これらの団体の情報を JIMA 会員に専用ホームページで最新情報を提供した。

経営関連学会協議会評議員に，降旗徹馬（高千穂大学）に JIMA の立場でご参画いただいた（敬称略）。

⑤ 他学協会との共催，協賛事業の支援

国内外での開催会議36件の協賛承認を行い，「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお，36件中 FMES 協賛覚書準拠の案件が12件，国際会議が3件であった。

日本 IE 協会，日本技術士会との3団体連携行事への協力，ConCom2019 協賛に伴う協力支援等を行った。

⑥ JABEE/FMES 関連

今期は，JABEE 委員会の機能を本委員会の業務として活動を行った。FMES には，代表者として大久保寛基（東京都市大学），中島健一（早稲田大学）を，FMES/JABEE 委員に渡邊一衛（成蹊大学），中島健一（早稲田大学）を，FMES シンポジウム委員に伊呂原隆（上智大学），翁嘉華（早稲田大学）をそれぞれ登録した（敬称略）。

⑦ 経営システム誌への国際会議報告寄稿者の推薦

経営システム誌に下記の国際会議報告の寄稿者を推薦し，掲載された（敬称略）。

(ア) 第29巻第2号，ICPR2019に参加して，長沢敬祐（広島大学）

(イ) 第30巻第1号，APIEMS2019に参加して，高野倉雅人（神奈川大学）・呉思迪（早稲田大学）

1.1) 経営システム誌編集委員会

理 事：西岡 久充

委員長：後藤 正幸

副委員長：石垣 綾，川村 大伸

委員：赤木 宏匡，片岡 隆之，小林 稔，齋藤 文，
齋藤 史哲，佐藤 哲也，蓮池 隆，
船木 謙一，松林 伸生

① 「経営システム」誌（Communications of JIMA），
Vol.29, No.1・No.2 を冊子体と電子媒体の両方にて
発行した。

（発行年月 巻-号 発行部数）

（ア）2019 年 7 月 15 日，29-1，1,800 部

（イ）2020 年 1 月 15 日，29-2，1,800 部

② 第 35 期の編集委員会体制として，2019 年度の編集
委員会を以下のように開催し，執筆依頼・入稿状況
を確認するとともに，今後の「経営システム」誌の
あり方，および編集方針等の各議題について協議し
た。

（ア）第 35 期第 1 回委員会

開催日：2019 年 6 月 4 日（火）～6 月 13 日（木）

場 所：メール審議

議 題：

A) 経営システム誌編集委員長の互選について

B) 経営システム誌編集副委員長の指名について

出席者：13 名

（イ）第 35 期第 2 回委員会

開催日：2019 年 7 月 19 日（金）

場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス 51 号館

15 階 15-00 室

議 題：

A) 第 35 期委員会メンバーの確認

B) 経営システム誌編集規則，運用細則，著作権
規則の確認と修正

C) 経営システム誌編集業務の進め方について

D) 2020 年 1 月号の小特集テーマについて

E) 今後の特集テーマの担当委員の決定

F) その他

出席者：9 名

（ウ）第 35 期第 3 回委員会

開催日：2019 年 9 月 10 日（火）

場 所：タワーホール船堀 C 会場

議 題：

A) 2020 年 1 月号（第 29 巻第 2 号）進捗状況の件

B) 2020 年 7 月号（第 30 巻第 1 号）の小特集の件

C) 企業人への経営工学実践事例の執筆依頼につ
いて

D) 経営システム賞の件

E) その他

F) 次回の委員会について

出席者：9 名

（エ）第 35 期第 4 回委員会

開催日：2019 年 10 月 19 日（土）～11 月 15 日（金）

場 所：メール審議

議 題：

A) 2019 年度 特別賞（経営システム賞）の候補
者選定の件

出席者：13 名

1 2) 支部委員会

理 事：森川 克己

委員長：森川 克己

委 員：各支部支部長，事務局長，嶋崎 真仁

① 委員会の開催

（ア）第 1 回支部委員会

開催日：2019 年 6 月 7 日（金）

場 所：メール審議

議 題：

A) 委員長ならびに副委員長の選出について

B) 委員会の業務内容，年間計画など

（イ）第 2 回支部委員会

開催日：2019 年 9 月 9 日（月）12:00-12:50

場 所：タワーホール船堀

議 題：

A) 連絡事項（支部 HP 更新，会員への案内法）

B) 検討事項（支部会員の異動情報提供）

C) 意見交換（活性化策など）

D) 今後の予定

追記：台風による交通混乱で委員長が参加できず，
9 月 11 日にメールによる報告と意見交換

（ウ）第 3 回支部委員会

開催日：2020 年 3 月 5 日（木）

場 所：メール審議

議 題：

A) 依頼事項（2019 年度決算と事業報告，特別功
労賞推薦）

B) 連絡事項（半期決算化，HP 対応依頼）

C) 提言の願い

② 支部委員との Mail による打合せ

議 題：

（ア）支部からの要望・提言の取りまとめと対応

1 3) 産官学連携委員会

理 事：藤野 直明

委員長：藤野 直明

委 員：松尾 博文，増田 靖

① 産官学連携委員会の進め方についての検討

準備会議（会長，副会長）開催

② 産学連携方策の可能性検討のための活動

一般財団法人エンジニアリング協会

A) 次世代スマート工場エンジニアリング研究会人
材教育分科会へ日本経営工学会会長，副会長と
して参加，産学交流でのカリキュラム作成支援

B) 同分科会では 2019 年度は実務リーダークラス
向けの教育カリキュラムを策定，教育実施は
2020 年 6 月を予定

C) 検討会議（のべ 7 回の分科会会合へ参加）

③ 産官学連携方策の可能性検討のための活動

経済産業省製造産業局 高田局長レクチャー

日時：2019 年 11 月 28 日（木）12:00-13:30

場所：経済産業省製造産業局 局長室

議題：DX の課題，エンジニアリングチェーンを巡る
閉塞（藤野）

参加者：製造産業局高田局長（以下幹部数人）

1 4) 公益事業推進特別委員会

理 事：中島 健一

委員長：松本 卓夫

委員：中塚 昭宏，佐藤 公俊

① 委員会の開催

第1回公益事業推進特別委員会

開催日：2019年10月26日（土）10:30-12:00

場 所：早稲田大学

議 題：

1. 公益事業連携事業者との連携モデル協議
2. 事業者との契約について
3. 今後の予定について

第2回公益事業推進特別委員会

開催日：2019年11月16日（土）12:00-13:00

場 所：日立ソリューションズ東日本

議 題：

1. SCM 教育システムコンテンツについて
2. ソフトウェア活用モデルについて
3. 今後の予定について

1.5) 70周年記念行事委員会

理 事：中島 健一

委員長：高野倉 正人

委 員：翁 嘉華，蓮池 隆，木内 正光，皆川 健多郎，
佐藤 公俊

① 委員会の開催

第1回70周年記念行事委員会

開催日：2019年7月20日（土）10:30-12:00

場 所：神奈川大学

議 題：

1. 委員長・副委員長の選出
2. 70周年記念事業企画について
3. 今後の予定

第2回70周年記念行事委員会

開催日：2019年9月7日（月）12:20-12:40

場 所：タワーホール船堀

議 題：

1. 70周年記念シンポジウムについて
2. JIS 改正について
3. 特別功労賞の評価基準について

第3回70周年記念行事委員会

開催日：2020年2月1日（土）16:30-17:15

場 所：神奈川大学

議 題：

1. JIS 及び生産管理用語辞典改訂について
2. 70周年記念講演および祝賀会について
3. 特別功労賞について

4. 今後の予定について

(5) 許可，認可，承認，証明等に関する事項

該当事項なし。

(6) 契約に関する事項

2019年3月一般財団法人学会誌刊行センターと「日本経営工学会論文誌」および「経営システム」編集発行業務について2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の代行委託契約を締結した。

2019年3月株式会社国際文献社と学会事務局の会員業務，会計業務，理事会運営業務，その他発生する業務について2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の代行委託契約を締結した。

(7) 寄付金に関する事項

該当事項なし。

(8) 主務官庁からの連絡事項

- 2019年4月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（A）
- 2019年5月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（B）
- 2019年6月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（C）

(9) その他重要事項

該当事項なし。

(10) 附属明細書

該当事項なし。

1. 1. 3 収支決算報告

[I] 財務諸表

貸借対照表

正味財産増減計算書

予算対比正味財産増減計算書

正味財産増減計算書内訳表

財産目録

財務諸表に対する注記

附属明細書

貸借対照表

令和 2年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,723,555	13,130,430	△ 1,406,875
未収金	464,002	401,610	62,392
流動資産合計	12,187,557	13,532,040	△ 1,344,483
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的事業運営資産	22,000,000	22,000,000	0
創立70周年記念事業準備金	1,800,000	1,800,000	0
特定資産合計	23,800,000	23,800,000	0
固定資産合計	23,800,000	23,800,000	0
資産合計	35,987,557	37,332,040	△ 1,344,483
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,122,255	4,925,316	△ 2,803,061
前受金	718,400	162,000	556,400
前受会費	185,000	97,000	88,000
預り金	202,934	27,938	174,996
未払消費税等	0	102,900	△ 102,900
流動負債合計	3,228,589	5,315,154	△ 2,086,565
負債合計	3,228,589	5,315,154	△ 2,086,565
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	32,758,968	32,016,886	742,082
(うち特定資産への充当額)	23,800,000	23,800,000	0
正味財産合計	32,758,968	32,016,886	742,082
負債及び正味財産合計	35,987,557	37,332,040	△ 1,344,483

正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会		(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	2,201	2,199	2	
特定資産受取利息	2,201	2,199	2	
正会員受取入会金	70,000	82,000	△ 12,000	
学生会員受取入会金	15,000	48,000	△ 33,000	
正会員受取会費	9,312,000	9,871,000	△ 559,000	
当年度	9,102,000	9,600,000	△ 498,000	
過年度	210,000	271,000	△ 61,000	
学生会員受取会費	294,000	408,000	△ 114,000	
当年度	262,000	392,000	△ 130,000	
過年度	32,000	16,000	16,000	
賛助会員受取会費	700,000	750,000	△ 50,000	
事業収益	7,576,146	10,980,471	△ 3,404,325	
春季大会事業収益	0	3,526,669	△ 3,526,669	
秋季大会事業収益	1,632,000	1,875,000	△ 243,000	
論文誌掲載収益	1,905,900	1,949,500	△ 43,600	
別刷代収益	116,390	146,480	△ 30,090	
広告料収益	160,000	160,000	0	
定期購読収益	305,208	286,294	18,914	
バックナンバー収益	37,851	114,156	△ 76,305	
支部収益	42,274	44,548	△ 2,274	
研究部門収益	0	681,160	△ 681,160	
産学連携研究交流会収益	3,376,523	2,196,664	1,179,859	
受取寄付金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
受取寄付金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
雑収益	170,307	125,498	44,809	
受取利息	57	44	13	
雑収益	170,250	125,454	44,796	
経常収益計	18,139,654	23,267,168	△ 5,127,514	
(2) 経常費用				
事業費	13,299,536	16,094,235	△ 2,794,699	
臨時雇賃金	148,802	482,647	△ 333,845	
会議費	1,147,855	1,957,289	△ 809,434	
旅費交通費	526,948	403,784	123,164	
通信運搬費	680,424	790,630	△ 110,206	
消耗品費	316,714	416,482	△ 99,768	
印刷製本費	5,208,956	5,552,818	△ 343,862	
HP関係費	316,684	474,012	△ 157,328	
諸謝金	997,404	1,379,503	△ 382,099	
支払負担金	51,700	0	51,700	
支払手数料	12,747	13,121	△ 374	
委託費	3,593,509	4,332,868	△ 739,359	
他学協会連携関係維持費	208,000	208,000	0	
雑費	89,793	83,081	6,712	
管理費	4,098,036	4,759,598	△ 661,562	
臨時雇賃金	0	12,000	△ 12,000	
会議費	8,960	11,700	△ 2,740	
旅費交通費	339,436	293,198	46,238	
通信運搬費	88,134	213,044	△ 124,910	
消耗品費	0	98,226	△ 98,226	
印刷製本費	11,968	23,494	△ 11,526	
HP関係費	125,436	203,148	△ 77,712	
租税公課	0	102,900	△ 102,900	
支払手数料	107,173	97,685	9,488	
委託費	3,387,229	3,675,043	△ 287,814	
雑費	29,700	29,160	540	
経常費用計	17,397,572	20,853,833	△ 3,456,261	
評価損益等調整前当期経常増減額	742,082	2,413,335	△ 1,671,253	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	742,082	2,413,335	△ 1,671,253	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	742,082	2,413,335	△ 1,671,253	
一般正味財産期首残高	32,016,886	29,603,551	2,413,335	
一般正味財産期末残高	32,758,968	32,016,886	742,082	
II 正味財産期末残高	32,758,968	32,016,886	742,082	

予算対比正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会		(単位:円)		
科 目	予算額	決算額	差 異	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	5,000	2,201	2,799	
特定資産受取利息	5,000	2,201	2,799	
正会員受取入会金	68,000	70,000	△ 2,000	
学生会員受取入会金	57,000	15,000	42,000	
正会員受取会費	10,320,000	9,312,000	1,008,000	
当年度	10,320,000	9,102,000	1,218,000	
過年度	0	210,000	△ 210,000	
学生会員受取会費	568,000	294,000	274,000	
当年度	568,000	262,000	306,000	
過年度	0	32,000	△ 32,000	
賛助会員受取会費	850,000	700,000	150,000	
事業収益	11,935,576	7,576,146	4,359,430	
春季大会事業収益	2,100,000	0	2,100,000	
秋季大会事業収益	2,110,000	1,632,000	478,000	
論文誌掲載収益	2,600,000	1,905,900	694,100	
別刷代収益	150,000	116,390	33,610	
広告料収益	160,000	160,000	0	
定期購読収益	315,576	305,208	10,368	
バックナンバー収益	0	37,851	△ 37,851	
支部収益	0	42,274	△ 42,274	
研究部門収益	750,000	0	750,000	
産学連携研究交流会収益	3,750,000	3,376,523	373,477	
雑収益	502,000	170,307	331,693	
受取利息	2,000	57	1,943	
雑収益	500,000	170,250	329,750	
経常収益計	24,305,576	18,139,654	6,165,922	
(2) 経常費用				
事業費	20,103,583	13,299,536	6,804,047	
臨時雇賃金	361,822	148,802	213,020	
会議費	3,354,278	1,147,855	2,206,423	
旅費交通費	513,678	526,948	△ 13,270	
通信運搬費	588,458	680,424	△ 91,966	
消耗品費	268,438	316,714	△ 48,276	
印刷製本費	7,325,138	5,208,956	2,116,182	
HP関係費	764,802	316,684	448,118	
諸謝金	2,153,088	997,404	1,155,684	
支払負担金	0	51,700	△ 51,700	
支払手数料	28,416	12,747	15,669	
委託費	3,883,987	3,593,509	290,478	
他学協会連携関係維持費	298,622	208,000	90,622	
雑費	562,856	89,793	473,063	
管理費	4,151,064	4,098,036	53,028	
会議費	40,000	8,960	31,040	
旅費交通費	250,000	339,436	△ 89,436	
通信運搬費	120,000	88,134	31,866	
消耗品費	9,000	0	9,000	
印刷製本費	70,000	11,968	58,032	
HP関係費	242,058	125,436	116,622	
租税公課	5,000	0	5,000	
支払手数料	235,800	107,173	128,627	
委託費	3,179,206	3,387,229	△ 208,023	
雑費	0	29,700	△ 29,700	
経常費用計	24,254,647	17,397,572	6,857,075	
評価損益等調整前当期経常増減額	50,929	742,082	△ 691,153	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	50,929	742,082	△ 691,153	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	50,929	742,082	△ 691,153	
一般正味財産期首残高	32,016,886	32,016,886	0	
一般正味財産期末残高	32,067,815	32,758,968	△ 691,153	
II 正味財産期末残高	32,067,815	32,758,968	△ 691,153	

正味財産増減計算書内訳表

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小 計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	2,201	2,201	0	2,201
特定資産受取利息	2,201	2,201	0	2,201
正会員受取入会金	35,000	35,000	35,000	70,000
学生会員受取入会金	7,500	7,500	7,500	15,000
正会員受取会費	4,656,000	4,656,000	4,656,000	9,312,000
当年度	4,551,000	4,551,000	4,551,000	9,102,000
過年度	105,000	105,000	105,000	210,000
学生会員受取会費	147,000	147,000	147,000	294,000
当年度	131,000	131,000	131,000	262,000
過年度	16,000	16,000	16,000	32,000
賛助会員受取会費	350,000	350,000	350,000	700,000
事業収益	7,576,146	7,576,146	0	7,576,146
秋季大会事業収益	1,632,000	1,632,000	0	1,632,000
論文誌掲載収益	1,905,900	1,905,900	0	1,905,900
別刷代収益	116,390	116,390	0	116,390
広告料収益	160,000	160,000	0	160,000
定期購読収益	305,208	305,208	0	305,208
バックナンバー収益	37,851	37,851	0	37,851
支部収益	42,274	42,274	0	42,274
産学連携研究交流会収益	3,376,523	3,376,523	0	3,376,523
雑収益	0	0	170,307	170,307
受取利息	0	0	57	57
雑収益	0	0	170,250	170,250
経常収益計	12,773,847	12,773,847	5,365,807	18,139,654
(2) 経常費用				
事業費	13,299,536	13,299,536	0	13,299,536
臨時雇賃金	148,802	148,802	0	148,802
会議費	1,147,855	1,147,855	0	1,147,855
旅費交通費	526,948	526,948	0	526,948
通信運搬費	680,424	680,424	0	680,424
消耗品費	316,714	316,714	0	316,714
印刷製本費	5,208,956	5,208,956	0	5,208,956
HP関係費	316,684	316,684	0	316,684
諸謝金	997,404	997,404	0	997,404
支払負担金	51,700	51,700	0	51,700
支払手数料	12,747	12,747	0	12,747
委託費	3,593,509	3,593,509	0	3,593,509
他学協会連携関係維持費	208,000	208,000	0	208,000
雑費	89,793	89,793	0	89,793
管理費	0	0	4,098,036	4,098,036
会議費	0	0	8,960	8,960
旅費交通費	0	0	339,436	339,436
通信運搬費	0	0	88,134	88,134
印刷製本費	0	0	11,968	11,968
HP関係費	0	0	125,436	125,436
支払手数料	0	0	107,173	107,173
委託費	0	0	3,387,229	3,387,229
雑費	0	0	29,700	29,700
経常費用計	13,299,536	13,299,536	4,098,036	17,397,572
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 525,689	△ 525,689	1,267,771	742,082
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 525,689	△ 525,689	1,267,771	742,082
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計				0
(2) 経常外費用				
経常外費用計				0
当期経常外増減額				0
他会計振替前当期一般正味財産増減額				742,082
当期一般正味財産増減額				742,082
一般正味財産期首残高				32,016,886
一般正味財産期末残高				32,758,968
II 正味財産期末残高				32,758,968

財産目録

令和 2年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会				(単位:円)			
貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額			
(流動資産)	預金	普通預金	運転資金として	8,112,047			
		三菱UFJ信託銀行上野支店		1,203,083			
		三井住友信託銀行芝営業部		138,606			
		みずほ銀行早稲田支店		3,205,297			
		みずほ銀行高田馬場支店/東北・北海道支部口座		27,500			
		みずほ銀行高田馬場支店/関東支部		529,442			
		みずほ銀行高田馬場支店/中部支部		116,822			
		みずほ銀行高田馬場支店/北陸支部		5,571			
		みずほ銀行高田馬場支店/関西支部		156,167			
		みずほ銀行高田馬場支店/中国四国支部		44,228			
		みずほ銀行高田馬場支店/九州支部		247			
		みずほ銀行高田馬場支店/FMESシンポジウム		28,840			
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費保管口座		1,271,784			
		みずほ銀行高田馬場支店/国際ワークショップ		1,189,460			
みずほ銀行高田馬場支店/大会組織委員会	195,000						
未収金	郵便振替	運転資金として	3,611,508				
	ゆうちょ銀行/会費振込専用口座		3,368,508				
	ゆうちょ銀行/大会参加費等振込専用口座		243,000				
			464,002				
			4,002				
			460,000				
流動資産合計				12,187,557			
(固定資産) 特定資産	公益目的事業運営資産	定期預金/三菱UFJ信託銀行上野支店 定期預金/三井住友信託銀行芝営業部 定期預金/みずほ銀行早稲田支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。 公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。 公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。	22,000,000			
				10,000,000			
				10,000,000			
				2,000,000			
				1,800,000			
				1,800,000			
創立70周年記念事業準備金			1,800,000				
みずほ銀行高田馬場支店/創立70周年記念事業準備金			1,800,000				
固定資産合計				23,800,000			
資産合計				35,987,557			
(流動負債)	未払金	㈱国際文献社 日本インダストリアル・エンジニアリング協会 関西支部 経営情報部門 表彰委員会 グローバル時代のMOT研究プロジェクト 産学連携研究交流会 第34期理事会	公益目的事業及び管理目的である会員・会計等の委託費用である。 公益目的事業である産学連携研究交流会の委託費用である。 公益目的事業の諸謝金である。 公益目的事業の臨時雇賃金・消耗品費用等である。 公益目的事業の消耗品費用である。 公益目的事業の消耗品費用等である。 公益目的事業の諸謝金費用である。 管理目的である理事会の旅費交通費用等である。 公益目的事業における大会事前参加費の80%	2,122,255			
				1,620,053			
				165,000			
				40,000			
				86,496			
				68,530			
				8,400			
				64,934			
				68,842			
				718,400			
				前受金 前受会費 預り金 源泉税 その他	翌事業年度以降の会費等 報酬支払に対する源泉税	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費及び入会金である。 源泉税の未払い分 公益目的事業における大会事前参加費の20%	185,000
							202,934
							3,334
							199,600
流動負債合計				3,228,589			
負債合計				3,228,589			
正味財産				32,758,968			

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	0	22,000,000
創立70周年記念事業準備金	1,800,000	0	0	1,800,000
合 計	23,800,000	0	0	23,800,000

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	(0)	(22,000,000)	(0)
創立70周年記念事業準備金	1,800,000	(0)	(1,800,000)	(0)
合 計	23,800,000	(0)	(23,800,000)	(0)

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

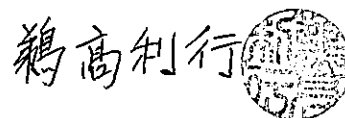
1. 2 監査報告

独立監査人の監査報告書

令和2年 4月 21日

公益社団法人日本経営工学会
理 事 会 御中

鶴高公認会計士事務所
公認会計士



<財務諸表監査>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、当公認会計士事務所が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当公認会計士事務所は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当公認会計士事務所に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当公認会計士事務所の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当公認会計士事務所は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当公認会計士事務所は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和2年3月31日現在の令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本経営工学会と当公認会計士事務所との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査報告書

2020 年 4 月 30 日

公益社団法人 日本経営工学会
会長 松川 弘明 殿

公益社団法人 日本経営工学会
監事 大久保 寛基 ⑩
監事 西口 宏美 ⑩

私たち監事は、2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

1. 3 2020 年度事業計画, 収支予算報告

2020 年度事業計画

1. 事業計画

[I] 研究発表会, 学術講演会の開催 (定款第 4 条第 1 号): 大会委員会

2020 年度は, 2020 年秋季大会と 2021 年春季大会を開催する。

- (1) 秋季大会 (70 周年記念行事と併催)
日 時: 2020 年 10 月 23 日 (金) ~ 25 日 (日)
場 所: 早稲田大学
大会組織委員長: 加藤麻樹
- (2) 70 周年記念講演会・祝賀会
開催日: 2020 年 10 月 23 日 (金)
場 所: 早稲田大学大隈記念講堂・
リーガロイヤルホテル早稲田
- (3) 春季大会
日 時: 未定
場 所: 未定
大会組織委員長: 未定

[II] 会誌, その他の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) 日本経営工学会論文誌「Journal of Japan Industrial Management Association」: 日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.71, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2020 年 4 月 15 日	71	1	1,300
2020 年 7 月 15 日	71	2, 2E	1,300
2020 年 10 月 15 日	71	3	1,300
2021 年 1 月 15 日	71	4, 4E	1,300

(2) 経営システム「Communications of JIMA」: 経営システム誌編集委員会

Vol.30, No.1, No.2 を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2020 年 7 月 15 日	30	1	1,800
2021 年 1 月 15 日	30	2	1,800

(3) JIS Z8141: 2001 生産管理用語の改訂: 70 周年特別委員会

原案作成期間: 2020 年 4 月 2 日 ~ 11 月 30 日
パブリックコメント実施後発行

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 4 条第 3 号)

(1) 表彰委員会

学会賞 (学術), 学会賞 (功労), 論文賞, 論文奨励賞, 特別賞 (経営システム賞, 経営工学実践賞, 優秀学生賞, Best Presentation Award) を選考し, 理事会に推薦する。

(2) 70 周年特別委員会

70 周年記念特別功労賞を選考し, 理事会に推薦する。

[IV] 調査, 研究, 見学及び視察 (定款第 4 条第 4 号)

2019 年度の事業を踏襲し, 引き続き支部, 研究部門で活動を行う。

(1) 支部活動計画: 支部委員会

1) 東北・北海道支部

ー北海道, 青森, 岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島

- ① 支部総会
日時: 2021 年 3 月 会場: 未定
- ② 研究発表会
日時: 2021 年 3 月 会場: 未定
- ③ 運営委員会
e メールにてその都度開催
- ④ その他

2) 関東支部

ー埼玉, 栃木, 群馬, 千葉, 茨城, 神奈川, 東京, 山梨

- ① 関東支部運営委員会
年間 2 回開催予定
- ② 人材育成研究会
年間 2 回講演会を開催予定 (春, 秋各 1 回)
- ③ 事業所見学会
年間 1 回夏頃開催予定
- ④ 支部合同セミナー
年間 1 回 3 月頃開催予定
- ⑤ 学生論文発表会
日時: 2021 年 3 月

3) 中部支部

ー愛知, 岐阜, 三重, 静岡

- ① 支部総会 (1 回)
日時: 2021 年 2 月 会場: 名古屋工業大学
- ② 委員会 (1 回)
日時: 2021 年 2 月 会場: 名古屋工業大学
- ③ シンポジウム (1 回)
日時: 2020 年 6 月
会場: 未定 (日本設備管理学会・東海支部と協賛)
- ④ 工場見学会 (1 回)
日時: 2020 年 11 月
会場: 未定 (日本設備管理学会・東海支部と協賛)
- ⑤ 支部講演会及び学生論文発表会 (1 回)
日時: 2021 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

4) 北陸支部

ー石川, 富山, 福井, 新潟, 長野

- ① 委員会 (2 回)
日時: 2020 年 5 月, 2021 年 2 月 会場: 未定
- ② セミナー (1 回)
日時: 2020 年 5 月 会場: 未定
- ③ 学生論文発表会 (1 回)
日時: 2021 年 2 月 会場: 未定

5) 関西支部

ー大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 奈良, 滋賀

- ① 支部総会

- (ア) 日時：2020 年 6 月
 (イ) 議題：2019 年度事業報告
 2019 年度収支決算報告
 2020 年度事業計画案
 2020 年度収支予算案
- ② 特別講演会
 日時：2020 年 6 月 会場：未定
- ③ 委員会 (5 回)
 日時：2020 年 6 月 会場：未定
 日時：2020 年 8 月 会場：未定
 日時：2020 年 10 月 会場：未定
 日時：2020 年 12 月 会場：未定
 日時：2021 年 2 月 会場：未定
- ④ セミナー (2 回)
 日時：2020 年 10 月 会場：未定
 日時：2021 年 2 月 会場：未定
- ⑤ 見学会 (2 回)
 日時：2020 年 9 月 見学先：未定
 日時：2021 年 3 月 見学先：未定
- ⑥ 学生論文発表会 (1 回)
 日時：2021 年 3 月
 会場：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス (予定)

6) 中国四国支部

一鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、徳島

- ① 支部総会
 (ア) 日時：2020 年 5 月
 (イ) 議題：2019 年度事業報告、決算報告
 2020 年度事業計画、収支予算等
 その他
- ② 支部運営委員会 (2 回)
 日時：2020 年 5 月 会場：未定
 日時：2021 年 3 月 会場：未定
- ③ 講演会 (2 回)
 日時：2020 年 5 月 会場：未定
 日時：2021 年 3 月 会場：未定
- ④ 見学会 (1 回)
 日時：2020 年 9 月 会場：未定
- ⑤ 学生論文発表会 (1 回)
 日時：2021 年 3 月 会場：未定
- ⑥ 勉強会 (1 回)
 日時：2020 年 11 月
 会場：マツダ (株) 本社 (予定)
- ⑦ 国際会議 (ICIM2020) (1 回)
 日時：2020 年 9 月 会場：タイ・バンコク

7) 九州支部

一福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

- ① 支部総会
 日時：2020 年 5 月 会場：福岡工業大学
 (ア) 総会
 2019 年度支部事業報告
 2019 年度支部決算報告
 2020 年度支部事業計画
 2020 年度支部予算案

その他

- (イ) 意見交換会
- ② 合同研究会 (年間 2 回)
 (ア) 第 1 回
 日時：2020 年 5 月 会場：福岡工業大学
 (イ) 第 2 回
 日時：2020 年 7 月 会場：未定
- ③ 経営工学合同定例セミナー
 日時：2020 年 12 月 会場：未定
- ④ 学生論文発表会
 日時：2021 年 2 月 会場：福岡工業大学
 (ア) 発表会
 予定発表 15 件程度
 (イ) 意見交換会
- ⑤ 見学会
 日時：2020 年 8 月上旬
 会場：未定 (生産現場など)
- ⑥ 学生会講演会
 日時：2020 年度中 会場：未定 講師：未定
- ⑦ 幹事会 (年間 3 回)
 2020 年 7 月、12 月、及び 2021 年 5 月
 (企画・運営委員会、論文集委員会、表彰委員会
 兼任) 企画、論文集発行、表彰等の計画・実施
- ⑧ 研究委員会 (年間 4 回)
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催
 日は委員長に一任
 研究会、見学会、セミナーの計画・実施
- ⑨ 学生助成委員会 (年間 2 回)
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し、開催
 日は委員長に一任
 論文発表会の会場・スケジュール、講演会の会
 場・講師・日程の調整・決定

(2) 研究部門活動計画：研究委員会

1) 生産・物流部門

- ① 生産物流部門研究活動の活性化
 (ア) 生産・物流部門運営システムの構築と実施
 (イ) 学会員への周知
- ② 産学連携に基づく社会への貢献
 (ア) 複数研究会設置及び関連活動による産学
 連携の推進
 (イ) 産学連携活動の場の提供、積極的な参加
- ③ 産学連携交流会の開催
- ④ 春季大会でのオーガナイズド・セッションの開催

2) 事業・市場部門

- ① 事業・市場開発研究部門研究活動の活性化
 (ア) 月 1 回の定期会議を通して、下記の議論と
 研究報告の実施
- ・スマート製品サービスとプラットフォーム・
 サービスに関する事業・市場の創造のための
 方策
 - ・上記の事業・市場を創造できる「未来戦略デ
 ザイン・ビジネスプロデューサー」の育成プ
 ログラムの体系化の研究と教育プログラム

- の開発
 - ・国内外への市場調査
 - ・ラーニングラボの実証実験
- (イ) 「未来戦略デザイン・ビジネスプロデューサー」の育成プログラムの社会人教育や大学・大学院教育への実証, VR ラボ
- (ウ) スマート製品サービスとプラットフォーム・サービスに関するビジネス創造のための「ラボ」の構築・運用
- ② 産学連携に基づく社会への貢献
研究部門及び関連活動による産学連携の推進
- ③ 研究報告
 - (ア) 春季大会, 秋季大会におけるオーガナイズド・セッションを企画し, 研究内容と成果を報告
 - (イ) JIMA 関連の学会にオーガナイズド・セッションを企画し, 研究内容と成果を報告
 - (ウ) 大学における社会人教育および学部・大学院において, 研究成果である教育プログラムの実施・検証
 - (エ) 経営システム誌など学術誌への研究成果の発表

3) サービス部門

- ① 部門基礎
昨年度に引き続き, 人間・組織部門と共に, 人間・組織, サービスの双方に関連する, 実務的に関心が高い経営工学的研究テーマの検討を進める。
- ② 講演会・見学会
人間・組織を考慮したサービス生産性向上, サービス設計, 改善・改良の実例・研究成果などの発表会・講演会あるいは交流会・見学会を人間・組織部門と共同で, 年数回開催する。
- ③ 春季大会でのオーガナイズド・セッションの開催

4) 経営情報部門

- ① 経営情報部門研究活動の活性化のための意見交換
- ② データ解析コンペティション JIMA 予選会の実施
- ③ 秋季大会でのオーガナイズド・セッションの開催

5) 経営数理部門

- ① 春季大会におけるオーガナイズド・セッション研究発表

6) 人間・組織部門

- ① 人間・組織研究部門研究活動の活性化
 - (ア) 部門主催の講演会 (年 2 回)
 - (イ) 将来に向けての部門活性化の検討
 - (ウ) サービス部門との連携研究活動
- ② 春季大会でのオーガナイズド・セッションの開催 (非会員あるいは企業からの発表者を招来予定)

(3) 研究プロジェクト：研究委員会

- 以下の 3 件の研究プロジェクトを実施
- 1) 集合知メカニズムデザインの研究

- 2) 観光・地域活性化データ分析研究プロジェクト
- 3) SCM 意思決定の体系化と教育プログラム構築に関する研究

[V] 内外の関連機関との提携及び交流 (定款第 4 条第 5 号)

- (1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ, メールマガジンによる会員向け案内の継続
- (2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応とそれらのホームページ, メールマガジンでの会員への案内・周知
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合 (横幹連合), 日本工学会, 経営関連学会協議会との連携とホームページへの情報掲載
- (4) APIEMS への協力・支援, 年次大会のホームページへの情報掲載
- (5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援, ホームページへの情報掲載促進
- (6) CHIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- (7) 経営システムへの国際会議報告等の寄稿者推薦
- (8) JABEE 及び FMES との連携活動
- (9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- (10) その他, 日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等
- (11) 公益事業モデルの構築による外部組織との新たな公益事業の展開

[VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業 (定款第 4 条第 6 号)

特になし

2. 会議に関する事項

[I] 定時総会

2020 年 5 月 (年 1 回) 開催予定

[II] 理事会

2020 年 4 月, 7 月, 10 月, 2021 年 1 月 (年 4 回) 開催予定 (理事会開催予定のない月はみなし決議を開催予定)

[III] 各種委員会

(1) 庶務委員会

- 1) 規程類の検討, 総会・理事会の運営, ホームページの作成・更新・運用, メールマガジン発行
- 2) 事務の諸手続きの国際文献社への依頼
- 3) 事業計画書及び事業報告書の確認

(2) 研究委員会

- 1) 研究部門の管理・活動支援
- 2) 研究プロジェクトの管理・活動支援
 - ① 研究部門及び関連活動による産学連携の推進
 - ② 産学連携活動の場の提供

(3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

- 1) 日本経営工学会論文誌 和文誌 4 号, 英文誌 2 号の発行
- 2) 特集号, 記念号発行の計画・調整

- 3) 年 6 回程度の委員会を開催し、論文誌発行を進めるとともに、規定類の見直し等について検討

(4) 企画・行事委員会

- 1) 新規の産学連携企画の検討

(5) 人材育成委員会

- 1) 技術士（経営工学）取得への支援活動：経営工学関係 3 団体（日本経営工学会、日本技術士会、日本 IE 協会）で連携しながら、技術士（経営工学）を目指している学生、実務を担当しながら技術士（経営工学）を目指している企業人に対して、国家資格としての技術士の制度や受験について支援活動をする。これにより、更に経営工学に興味を持ってもらい、将来的に日本経営工学会への入会につなげていく。
- 2) 実践教育プログラムの活動：日本経営工学会の人材育成に関する方針に関連した諸活動。

(6) 会員委員会

- 1) 会員の入退会の管理、報告
- 2) 会員名簿の情報セキュリティ運用対策の実施
- 3) 会員増強のためのデータ分析
- 4) 会員増強策の検討、提案
- 5) プレ会員の登録、管理

(7) 財務委員会

- 1) 毎月の伝票検査、支払い及び四半期毎の予算執行の管理
- 2) 決算案の作成と事業報告書の提出期限の周知、監査手続き
- 3) 予算案のとりまとめと事業計画書の提出期限の周知
- 4) 計数的統制と効率的運用

(8) 大会委員会

- 1) 春季・秋季大会での委員会開催
- 2) 春季・秋季大会プログラム検討の委員会開催
- 3) 事務局との大会関連の調整
- 4) その他大会に関する会合（e メール等で開催）

(9) 表彰委員会

年間 5～6 回の委員会を開催し、学会賞（学術）、学会賞（功労）、論文賞、論文奨励賞、特別賞（経営システム賞、経営工学実践賞、優秀学生賞、Best Presentation Award）の各候補の推薦方法を検討し、各賞受賞候補者（案）を決定し、理事会に諮る。

(10) 国際・渉外委員会

- 1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ、メールマガジンによる会員向け案内の継続
- 2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、

日本工学会、経営関連協議会との連携とホームページへの情報掲載

- 4) APIEMS への協力・支援、年次大会のホームページへの情報掲載
- 5) IFPR（ICPR）及び IFPR-APR への協力・支援、ホームページへの情報掲載促進
- 6) CHIE、KIE との MOU に基づく連携活動
- 7) 「経営システム」誌への国際会議報告等の寄稿者推薦
- 8) JABEE 及び FMES との連携活動
- 9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- 10) 大会委員会ならびに研究委員会と連携した FMES シンポジウムの開催
- 11) その他、日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等

(11) 経営システム誌編集委員会

- 1) 年間 2 冊の発行を継続しつつ電子化を推進
- 2) 学会活動を広く発信する観点から、経営システム誌の各コンテンツの内容、発信媒体を再検討
- 3) 上記を議論するため、適宜、編集委員会を開催

(12) 支部委員会

- 1) 委員会の開催
- 2) 各支部の事業計画と支部に割り当てる資金・企画行事の検討
- 3) 支部活動や支部間連携活動の活性化支援
- 4) 支部の運営方法や大会開催支援に関する検討

(13) 70 周年記特別委員会

- 1) 70 周年記念講演会・祝賀会の企画・運営
- 2) 70 周年記念特別功労賞の選考
- 3) JIS 生産管理用語改訂に関する支援
- 4) 上記事業検討に関する委員会の開催

(14) 公益事業推進特別委員会

- 1) 外部組織との公益事業推進モデルの検討
- 2) 外部組織連携による公益事業の実施支援
- 3) 上記事業検討に関する委員会の開催

(15) 産官学連携推進特別委員会

- 1) 日本経営工学会 70 周年を契機に、産・官・学連携を一層強化する方策を関連各主体との議論を踏まえ、具体化していく。
- 2) 産業界は賛助会員はもちろん現在賛助会員にはなっていない企業をも含めた検討を行う。官も文部科学省はもちろん、経済産業省、厚生労働省などとの検討、学も関連学会を含めた連携を視野に入れた検討を行いたい。

収支予算書

2020年 4月1日から2021年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	5,000	5,000	0
正会員受取入会金	60,000	68,000	△ 8,000
学生会員受取入会金	28,000	57,000	△ 29,000
正会員受取会費	9,756,000	10,320,000	△ 564,000
学生会員受取会費	418,000	568,000	△ 150,000
賛助会員受取会費	850,000	850,000	0
事業収益	5,908,600	11,935,576	△ 6,026,976
産学連携研究交流会事業収益	0	3,750,000	△ 3,750,000
春季大会事業収益	0	2,100,000	△ 2,100,000
秋季大会事業収益	1,300,000	2,110,000	△ 810,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0
別刷代収益	150,000	150,000	0
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	316,800	315,576	1,224
バックナンバー収益	19,800	0	19,800
支部収益	0	0	0
研究部門収益	0	750,000	△ 750,000
記念事業収益	1,000,000	0	1,000,000
その他事業収益	362,000	0	362,000
受取寄付金	0	0	0
雑収益	302,000	502,000	△ 200,000
受取利息	2,000	2,000	0
雑収益	300,000	500,000	△ 200,000
経常収益計	17,327,600	24,305,576	△ 6,977,976
(2) 経常費用			
事業費	14,176,748	20,103,583	△ 5,926,835
臨時雇賃金	304,551	361,822	△ 57,271
会議費	2,203,816	3,354,278	△ 1,150,462
旅費交通費	297,452	513,678	△ 216,226
通信運搬費	615,560	588,458	27,102
消耗品費	582,007	268,438	313,569
印刷製本費	6,390,500	7,325,138	△ 934,638
諸謝金	983,335	2,153,088	△ 1,169,753
支払手数料	16,986	28,416	△ 11,430
HP関係費	265,630	764,802	△ 499,172
委託費	2,151,055	3,883,987	△ 1,732,932
他学協会連携関係維持費	211,000	298,622	△ 87,622
雑費	154,856	562,856	△ 408,000
管理費	4,824,103	4,151,064	673,039
臨時雇賃金	39,600	0	39,600
会議費	40,000	40,000	0
旅費交通費	480,000	250,000	230,000
通信運搬費	120,000	120,000	0
消耗品費	9,000	9,000	0
印刷製本費	70,000	70,000	0
租税公課	5,000	5,000	0
支払手数料	90,000	235,800	△ 145,800
HP関係費	113,842	242,058	△ 128,216
委託費	3,856,661	3,179,206	677,455
雑費	0	0	0
経常費用計	19,000,851	24,254,647	△ 5,253,796
当期経常増減額	△ 1,673,251	50,929	△ 1,724,180
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,673,251	50,929	△ 1,724,180
一般正味財産期首残高	30,759,577	30,708,648	50,929
一般正味財産期末残高	29,086,326	30,759,577	△ 1,673,251
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	29,086,326	30,759,577	△ 1,673,251

収支予算書内訳表

2020年 4月1日から2021年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	5,000	5,000	0	5,000
正会員受取入会金	30,000	30,000	30,000	60,000
学生会員受取入会金	14,000	14,000	14,000	28,000
正会員受取会費	4,878,000	4,878,000	4,878,000	9,756,000
学生会員受取会費	209,000	209,000	209,000	418,000
賛助会員受取会費	425,000	425,000	425,000	850,000
事業収益	5,908,600	5,908,600	0	5,908,600
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0	0
春季大会事業収益	0	0	0	0
秋季大会事業収益	1,300,000	1,300,000	0	1,300,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0	2,600,000
別刷代収益	150,000	150,000	0	150,000
広告料収益	160,000	160,000	0	160,000
定期購読収益	316,800	316,800	0	316,800
バックナンバー収益	19,800	19,800	0	19,800
支部収益	0	0	0	0
研究部門収益	0	0	0	0
記念事業収益	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000
その他事業収益	362,000	362,000	0	362,000
受取寄付金	0	0	0	0
雑収益	0	0	302,000	302,000
受取利息	0	0	2,000	2,000
雑収益	0	0	300,000	300,000
経常収益計	11,469,600	11,469,600	5,858,000	17,327,600
(2) 経常費用				
事業費	14,176,748	14,176,748	0	14,176,748
臨時雇賃金	304,551	304,551	0	304,551
会議費	2,203,816	2,203,816	0	2,203,816
旅費交通費	297,452	297,452	0	297,452
通信運搬費	615,560	615,560	0	615,560
消耗品費	582,007	582,007	0	582,007
印刷製本費	6,390,500	6,390,500	0	6,390,500
諸謝金	983,335	983,335	0	983,335
支払手数料	16,986	16,986	0	16,986
HP関係費	265,630	265,630	0	265,630
委託費	2,151,055	2,151,055	0	2,151,055
他学協会連携関係維持費	211,000	211,000	0	211,000
雑費	154,856	154,856	0	154,856
管理費	0	0	4,824,103	4,824,103
臨時雇賃金	0	0	39,600	39,600
会議費	0	0	40,000	40,000
旅費交通費	0	0	480,000	480,000
通信運搬費	0	0	120,000	120,000
消耗品費	0	0	9,000	9,000
印刷製本費	0	0	70,000	70,000
租税公課	0	0	5,000	5,000
支払手数料	0	0	90,000	90,000
HP関係費	0	0	113,842	113,842
委託費	0	0	3,856,661	3,856,661
雑費	0	0	0	0
経常費用計	14,176,748	14,176,748	4,824,103	19,000,851
当期経常増減額	△ 2,707,148	△ 2,707,148	1,033,897	△ 1,673,251
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,707,148	△ 2,707,148	1,033,897	△ 1,673,251
一般正味財産期首残高				30,759,577
一般正味財産期末残高				29,086,326
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				29,086,326

1. 4. 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

◎会員権利停止・会員資格喪失予告者一覧（1 年間：2019 年度 賛助会員：1 社 正会員：44 名 学生会員：25 名）

下記の会員権利停止・会員資格喪失予告者については定款第 10 条および会員規則第 4 条により、

(1) 2020 年 9 月末日時点で会費未納の場合は、会員の権利を 2021 年 1 月末日まで停止する。

(2) 2021 年 1 月末日時点で会費未納の場合は、会員資格喪失とする。

賛助会員 1 社

マルヤス工業株式会社

正会員 44 名

山北 剛	原 晋司	片穂野 尚美	住田 潮	日下部 太郎
根岸 壮	鈴木 広人	山本 健	市倉 信義	蔵本 薫
田中 景悟	郭 恩志	羽深 俊一	後藤 裕介	坂巻 英一
小里 千寿	飯田 哲也	松本 正樹	城戸 由能	佐藤 勝尚
矢野 肇	中山 明	岡里 惣治	福田 裕一	中野 光義
関 真永	菊地 宥斗	軽部 幸起	田村 傑	片山 博
大森 峻一	伊集院 大将	辻村 泰寛	羽原 敬二	池谷 隆典
浦島 直	河田 舞子	岡田 好史	佐藤 一郎	岡部 建次
幕内 利洋	矢口 博	木原 一夫	河瀬 理貴	

学生会員 25 名

鄒 林静	田中 雅也	小原 崇矢	夏目 翔平	海老原 佑
佐野 宏樹	堀田 侑希	南 勝也	岩田 幸恵	鄭 聡
南茂 尚義	植田 好昭	八重樫 奈那	佐藤 彩子	藤波 英輝
後藤 祐貴	飯島 雅也	倉田 悠平	林 ジェン	福田 友哉
近藤 礼奈	近藤 誠人	梅村 和弘	高地 雄太郎	鈴木 万裕

2. 審議事項

第一号議案 2019 年度事業報告及び収支決算報告の件

報告事項 1. 1 2019 年度事業報告，学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告（pp. 1～pp. 32）をご参照ください。

第二号議案 名誉会員推戴の件

会員細則

JS2-05-1

公益社団法人 日本経営工学会

第2章 名誉会員推薦

- 第1条 名誉会員推薦については定款第5条に定めるものの他は、本細則にもとづいて行う。
- 第2条 名誉会員候補者は、3月末時点において70歳以上で、本細則第3条のいずれかに該当する人とする。
- 第3条 前会長または元会長
- 2 副会長，理事，監事，支部長，委員長の各1期を以下のように定め、合計10点以上の人。
ただし、期末満の場合には、繰り上げとする。
 - ・副会長 5点 ・理事 4点
 - ・監事 4点（ただし、公益社団法人認定以前（第29期以前）は2点）
 - ・支部長 2点 ・委員長 1点
 - 3 その他、上記に準じると理事会が認めた人。
- 第4条 本細則第3条にもとづき、会員委員会は候補者名簿を作成し、理事会に報告する。理事会はこれを検討の後、候補者案をまとめて、総会に提案する。総会は、この候補者を定款第5条に基づき審査し、推薦を議決する。
- 2 名誉会員候補者に対しては、理事会承認後、会長名の文書で名誉会員候補者に推薦された旨を伝え、総会授賞式への出席を求め、他の名誉会員と同様に大会への無料招待状を送り、名誉会員推戴が議決された総会開催年度以降の年会費を無料とする。

上記会員細則に基づき、会員委員会、理事会で審議の結果、本会正会員の

渡邊 一衛氏

を名誉会員として推戴いたします。

公益社団法人 日本経営工学会